

バスケットボールプラザ

Basketball Plaza

No.94



2022 年 6 月

NPO 法人 日本バスケットボール振興会

目 次

○ 2022 年度会長挨拶・理事会と通常総会の開催	2
○ 2021 年度第 97 回天皇杯 川崎ブレイブサンダースが 2 連覇、5 回目の優勝	1 2
○ B リーグ 2021～22 season 閉幕 Champion は宇都宮	1 4
○ 第 23 回 W リーグ情報	1 9
○ 第 56 回関東女子バスケットボール選手権大会 桜花学園高校 O G 大活躍！	2 4
○ 人物抄 日本バスケット界の先駆者 『妹尾 堅吉』	歴史部 2 5
○ 黄金色のユニフォーム「ハワイ AJA チーム」の来日	歴史部 2 9
○ シニアチーム紹介 緑地クラブ	普及部 3 2
○ 会員だより スポーツと障がいのある人たち ―その 4―	上谷 富彦 3 4
○ 会員だより 能代に送るバスケット愛 小学生の可能性は無限大。まずは楽しく！	島本 和彦 3 7
○ 高校籠球ふるさと記（埼玉県編）	事務局 3 8
○ 事務局だより	事務局 4 4
○ プラザ こぼればなし	4 5

新たな取り組みへ

会長 大野 龍一

1978 年の発足以来、多くの方々のご理解・ご協力のもと「日本バスケットボール協会への協力と提言」、「バスケットボール団体への協力・支援」、「歴史の調査・研究と資料の収集」、「組織の充実」、「会員の交流を図る」ことなどを目的に活動してきております。

さて、昨年は日本女子バスケットボールチームが東京オリンピックで銀メダルを獲得し、バスケットボール愛好者はもとより、大勢の方々に大きな感動を与えてくれました。さらに、パラリンピックでは男子車椅子バスケットボールの銀メダル獲得など、Bリーグの人気上昇とも相俟って、バスケットの日本でのメジャースポーツ入りする感が強まっていると言えます。

一方、スポーツを取り巻く環境は厳しく、時代とともに変化しております。また、世界の社会情勢も尚、流動的であるなど、対応する課題も少なくありません。

従って、振興会としても、こうした変化への対応を課題として取り組んで行きたいと考えております。

どうぞ皆さまの変わらぬご支援、ご協力を心よりお願い申し上げます。 以上

理事会と通常総会の開催

[事務局]

令和 4 年度開始にあたり、渡辺理事長の挨拶を紹介し、新年度の理事会と通常総会について報告するとともに、採決対象の「令和 4 年度通常総会資料」を添付します。

渡辺理事長挨拶

コロナ禍の中、不自由なく社会の活動が行われ、規制もなくスポーツの活動が行われることができる環境がいかに恵まれたものであったことを実感しました。選手、関係者の人たちは、決められた管理と制限された環境のなかで「バスケットボールで日本を元気にする」ことの実現に寄与しようと競技を続けました。

振興会も、当初の予定を中止するなど活動が制限されましたが、会員の皆様のご支援ご理解いただき活動を続けることができました。令和 4 年度も活動の指針に基づき、事業の活発化・会員の交流などを図り、従来の事業以外の新しい取り組みも検討する所存です。また、役員改定の年度であり、令和 4・5 年度新役員（案）を提案します。

理事会と通常総会

令和 4 年度、定例で開催される理事会及び通常総会は、前年度に続いて書面決議となりました。

今回も、会員の皆様の議決を頂きたく「通常総会資料」を理事会の賛同（電磁的決議）を得て、ここに掲載します。

令和4年度

通常総会資料

< 目 次 >

1. 令和3年度 事業活動報告	1
2. 令和3年度 事業会計収支決算報告	3
3. 同上 監査報告.....	4
4. 令和4年度 事業活動計画（案）	5
5. 令和4年度 事業会計収支予算（案）	7
6. 令和4・5年度役員（案）	8



1. 令和3年度事業活動報告

1. 日本バスケットボール協会への協力と提言
2. バスケットボール競技団体への協力・支援
3. 日本のバスケットボールの歴史の調査研究と資料の収集
4. 組織の充実と財政の確立
5. 会員相互の交流を図る

各部	事業内容	具体的内容			実績
編集部	1. 会報「バスケットボールプラザ」の発行	(1) 発行時期と主な掲載記事			コロナ禍の影響で発行時期が1か月遅れでの発行となった。 プラザ4回の発行 「先人の軌跡」「神田バスケットボール資料室」「シニアチームの紹介」「高校籠球ふるさと記」継続的に掲載した。 *下線部分は、未実施のため掲載せず
		No.	発行時期	主な掲載記事	
		90	令和3年6月	理事会と定期総会開催、シニアチームの紹介、Bリーグ・Wリーグ結果報告、「先人の軌跡」「神田バスケットボール資料室」「高校籠球ふるさと記」（熊本県編）など	
		91	令和3年9月	今後の課題、「先人の軌跡」「神田バスケットボール資料室」（資料公開・ルールブック）「高校籠球ふるさと記」（福井県・岩手県編）など	
		92	令和3年12月	<u>秋季講演会、交流会開催</u> 、Bリーグ・Wリーグなど大会情報、「先人の軌跡」「神田バスケットボール資料室」（発行物紹介）「高校籠球ふるさと記」（宮城県・岡山県編）	継続努力 継続努力
		93	令和4年3月	天皇杯、皇后杯、ウインターカップなど大会結果、「 <u>バスケットボールの日</u> 」・「 <u>シニア交歓大会</u> 」「神田バスケットボール資料室」（大正・昭和の試合風景）「高校籠球ふるさと記」（奈良県・佐賀県編）	
		(2) 発行部数の拡大			継続努力
		(3) 広告掲載社の維持・拡大 現在 4社			継続努力

各部	事業内容	具体的内容	実 績
普及部	1. シニア大会の開催と拡大	(1) 第13回シニアバスケットボール交歓大会を令和4年2月3・4日に「国立オリンピック記念青少年総合センター」で開催、約200名の参加予定 (2) 全国で開催されているシニア大会の情報収集とプラザ等での紹介	コロナ感染影響により開催中止 計画通り実施
歴史部	1. 歴史的データの収集と整理	(1) 日本バスケットボールの歴史的資料のアウトプットの具体的方法を検討 (2) 神田バスケットボール資料室の資料の公開と閲覧の実施 (3) JBA90周年の歴史のトピックスを整理する	継続努力 計画通り実施 計画通り実施
事務局	1. 振興会活動の運営の支援と効率化を計る	(1) 理事会、総会、講演会等の事務連絡及び振興会の活動の円滑化を図る (2) 「神田バスケットボール資料室」を新設 (3) 会員数及び賛助会員（7社）の維持拡大 (4) 「プラザ購読会員」の新規会員獲得に努力する (5) 地方協会の「プラザ購読一部負担金」増加を計る (6) ホームページ・メルマガなどによる情報発信	講演会開催中止 計画通り実施 継続努力 継続努力 継続努力 一部実施

令和3年度 会員動向

	平成2年度末 (令 3.3.31)	令和3年度末 (令 4.3.31)	増 減	備 考
個 人	152名	141名	▲11名	新規会員 6名 退会者 17名（内 逝去者4名 2年以上会費未納7名）
賛助会員	7社	5社	▲2社	退会会員 ▲2社

2. 令和3年度特定非営利活動に係る事業会計収支決算書

～令和4年3月31日

(単位：円)

科 目	3年度予算	3年度決算	増 減	備 考
I 経常収支の部				
1. 経 常 収 入				
(1)会費収入				
正会員会費	1,300,000	1,125,000	▲ 175,000	
賛助会員会費	250,000	260,000	10,000	
個人購読会員		0	0	
会費収入計	1,550,000	1,385,000	▲ 165,000	
(2)事業収入				
広告掲載料	100,000	90,000	▲ 10,000	
月刊BB負担金	260,000	192,000	▲ 68,000	
各種販売益	0	43,900	43,900	
交流会・講演会	10,000	0	▲ 10,000	
シニア大会	430,000	0	▲ 430,000	
そ の 他	0	0	0	
事業収入計	800,000	325,900	▲ 474,100	
(3)寄 付 金	270,000	195,000	▲ 75,000	
(4)雑 収 入	44,000	7,500	▲ 36,500	
(5)受取利息	0	3	3	
経常収入計	2,664,000	1,913,403	▲ 750,597	
2. 経 常 支 出				
(1)事 業 費				
広報・啓発活動費	924,000	812,719	▲ 111,281	
普及支援活動費	450,000	20,000	▲ 430,000	
協力及び提言活動費	0	0	0	
調査・研究活動費	80,000	13,498	▲ 66,502	
その他活動費	50,000	80,736	30,736	
事業費計	1,504,000	926,953	▲ 577,047	
(2)管理費				
会議費	40,000	0	▲ 40,000	
通信費	150,000	81,296	▲ 68,704	
水道光熱費	60,000	45,291	▲ 14,709	
事務所借用費	660,000	662,388	2,388	
租税公課	0	0	0	
雑 費	0	43,816	43,816	
その他事務所運営費	250,000	167,883	▲ 82,117	
管理費計	1,160,000	1,000,674	▲ 159,326	
経常支出計	2,664,000	1,927,627	▲ 736,373	
3. 経常収支差額	0	▲ 14,224	▲ 14,224	
II その他資金収支の部				
1. その他資金収入				
その他資金収入計	0	0	0	
2. その他資金支出				
その他資金支出計	0	0	0	
当期収支差額	0	▲ 14,224	-	
前期繰越収支差額	0	610,074	610,074	
次期繰越収支差額	0	595,850	595,850	

特定非営利活動に係る事業会計貸借対照表

財産目録

令和 4 年 3 月 31 日現在

(単位:円)

科 目	金 額		
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金			
現金	4,984		
ゆうちょ銀行	108,295		
三菱UFJ銀行	205,717		
みずほ銀行	76,416		
流動資産合計		395,412	
2. 固定資産			
三菱UFJ・定期預金	200,438		
固定資産合計		200,438	
資産合計			595,850
II 負債の部			
1. 流動負債			
流動負債合計		0	
2. 固定負債			
固定負債合計		0	
負債合計			0
正味財産			595,850

3. 令和 3 年度監査報告

監査報告書

令和4年6月9日

特定非営利活動法人 日本バスケットボール振興会の令和3年度（令和3年4月1日から令和4年3月31日まで）の業務監査及び会計監査を実施した。

監査の結果当法人の業務は法令及び定款に基づき適正に執行され、会計処理はNPO法人会計基準及び一般に公正妥当と認められる会計の方法によって適正に処理されているものと認められた。

上記期間に係る同法人の事業報告及び計算書類が、業務執行の状況及び令和4年3月31日における財産の状況を適正に表示しているものと認める。

監 事 都 崎 修 男



4. 令和4年度事業活動計画（案）

1. （公財）日本バスケットボール協会への協力と提言
2. バスケットボール競技団体への協力・支援
3. 日本のバスケットボールの歴史の調査研究と資料の収集
4. 組織の充実と財政の確立
5. 会員相互の交流を図る

各部	事業内容	具体的内容			備考
	1. 会報「バスケットボールプラザ」の発行	(1)発行時期と主な掲載記事（予定）			
		No.	発行時期	主な掲載記事	
		94	令和4年 6月	理事会と定期総会開催（総会資料）、シニアチームの紹介、Bリーグ、Wリーグ結果報告「先人の軌跡」「神田バスケットボール資料室」の紹介、「高校籠球ふるさと記」（埼玉県編）掲載など	
		95	令和4年 9月	「先人の軌跡」「神田バスケットボール資料室」、シニアチームの紹介、「高校籠球ふるさと記」（石川県・三重県編）掲載など	
		96	令和4年 12月	秋季講演会、交流会開催、Bリーグ・Wリーグなど大会情報、「先人の軌跡」「神田バスケットボール資料室」、シニアチームの紹介、「高校籠球ふるさと記」（鹿児島県・新潟県編）掲載など	
		97	令和5年 3月	天皇杯、皇后杯、Wリーグ・ウインターカップなど大会結果、「バスケットボールの日」・「シニア交歓大会」開催報告、シニアチームの紹介掲載など	
		(2)発行部数の拡大			
		(3)広告掲載社の維持・拡大			

各部	事業内容	具体的内容	備 考
普及部	1. シニア大会の開催と拡大 2. 他団体への活動協力	(1)第13回シニアバスケットボール交歓大会を令和4年10月27・28日に「代々木第二体育館」で開催、約200名の参加予定 (2)全国で開催されているシニア大会の情報収集とプラザ等での紹介 (3)「バスケットボールの日」開催協力等	
歴史部	1. 歴史的データの収集と整理	(1)日本バスケットボールの歴史的資料のアウトプットの具体的方法を検討 (2)神田バスケットボール資料室の資料の公開と閲覧の実施 (3)JBA100周年の歴史のトピックスを整理する	
事務局	1. 振興会活動の運営の支援と効率化を計る	(1)理事会、総会、講演会等の事務連絡及び振興会の活動の円滑化を図る (2)「神田バスケットボール資料室」活動 (3)会員数及び賛助会員の維持拡大 (4)「プラザ購読会員」の新規会員獲得に努力する (5)地方協会の「プラザ購読一部負担金」増加を計る (6)ホームページ・メルマガなどによる情報発信	

(参考) 神田バスケットボール資料室の概要

日本のバスケットボール界の資料を収集し「先人の軌跡」を次世代へつなげ、次の3つの区分として資料の充実と検索・整備を図る

- 1) バスケットボールの発行物
- 2) 個人所有の収集物の保管
- 3) バスケットボール関係の大会記念品、参加章等

5. 令和4年度特定非営利活動に係る事業会計収支予算書（案）

令和4年4月1日～令和5年3月31日

（単位：円）

科 目	3年度予算	3年度実績	4年度予算	対3年度予算比	対3年度実績比	備 考
I 経常収支の部						
1. 経 常 収 入						
(1)会費収入						
正会員会費	1,300,000	1,125,000	1,265,000	▲ 35,000	140,000	
賛助会員会費	250,000	260,000	260,000	10,000	0	
会費収入計	1,550,000	1,385,000	1,525,000	▲ 25,000	140,000	
(2)事業収入		0			0	
広告掲載料	100,000	90,000	90,000	▲ 10,000	0	
月刊BB負担金	260,000	192,000	188,000	▲ 72,000	▲ 4,000	
各種販売益	0	43,900	0	0	▲ 43,900	
交流会・講演会	10,000	0	10,000	0	10,000	
シニア大会	430,000	0	430,000	0	430,000	
そ の 他	0	0	0	0	0	
事業収入計	800,000	325,900	718,000	▲ 82,000	392,100	
(3)寄 付 金	270,000	195,000	195,000	▲ 75,000	0	
(4)雑 収 入	44,000	7,500	30,000	▲ 14,000	22,500	
(5)受取利息	0	3	0	0	▲ 3	
経常収入計	2,664,000	1,913,403	2,468,000	▲ 196,000	554,597	
2. 経 常 支 出					0	
(1)事 業 費					0	
広報・啓発活動費	924,000	812,719	806,000	▲ 118,000	▲ 6,719	
普及支援活動費	450,000	20,000	450,000	0	430,000	
協力及び提言活動費	0	0	0	0	0	
調査・研究活動費	80,000	13,498	0	▲ 80,000	▲ 13,498	
その他活動費	50,000	80,736	50,000	0	▲ 30,736	
事業費計	1,504,000	926,953	1,306,000	▲ 198,000	379,047	
(2)管理費					0	
会議費	40,000	0	40,000	0	40,000	
通信費	150,000	81,296	100,000	▲ 50,000	18,704	
水道光熱費	60,000	45,291	60,000	0	14,709	
事務所借用費	660,000	662,388	660,000	0	▲ 2,388	
租税公課	0	0	0	0	0	
雑 費	0	43,816	0	0	▲ 43,816	
その他事務所運営費	250,000	167,883	250,000	0	82,117	
管理費計	1,160,000	1,000,674	1,110,000	▲ 50,000	109,326	
経常支出計	2,664,000	1,927,627	2,416,000	▲ 248,000	488,373	
3. 経常収支差額	0	▲ 14,224	52,000	52,000	66,224	
II その他資金収支の部						
1. その他資金収入					0	
その他資金収入計	0	0	0	0	0	
2. その他資金支出					0	
その他資金支出計	0	0	0	0	0	
当期収支差額	0	▲ 14,224	52,000	52,000	66,224	
前期繰越収支差額	0	610,074	595,850	595,850	▲ 14,224	
次期繰越収支差額	0	595,850	647,850	647,850	52,000	

6. 令和4・5年度役員（案）

50音順

	氏 名	
会 長	大 野 龍 一	
副 会 長	小 澤 正 博	
	上 谷 富 彦	
理 事 長	渡 邊 誠	
副理事長	蒲 田 尚 史	
	佐々木 政 治	
	杉 山 絹 枝	
理 事	池 田 理	
	池 本 祐一郎	新任
	奥 田 晃 紀	
	鹿子木 雅	
	草 階 勇 人	
	佐 藤 精 孝	
	渋谷 美由紀	
	鈴 木 承 二	
	高 橋 旭	新任
	羽佐田 恭 正	
	深 尾 秀 次	
	諸 山 文 彦	
	結 城 昭 二	
監 事	西 川 和 人	新任
	吉 田 頼 且	新任

退 任	篠 原 正 邦	
-----	---------	--

顧 問	愛 知 和 男	佐 室 有 志
	麻 生 太 郎	都 崎 修 男
	兒 玉 幸 長	水 野 明 人

2021 年度 第 97 回天皇杯

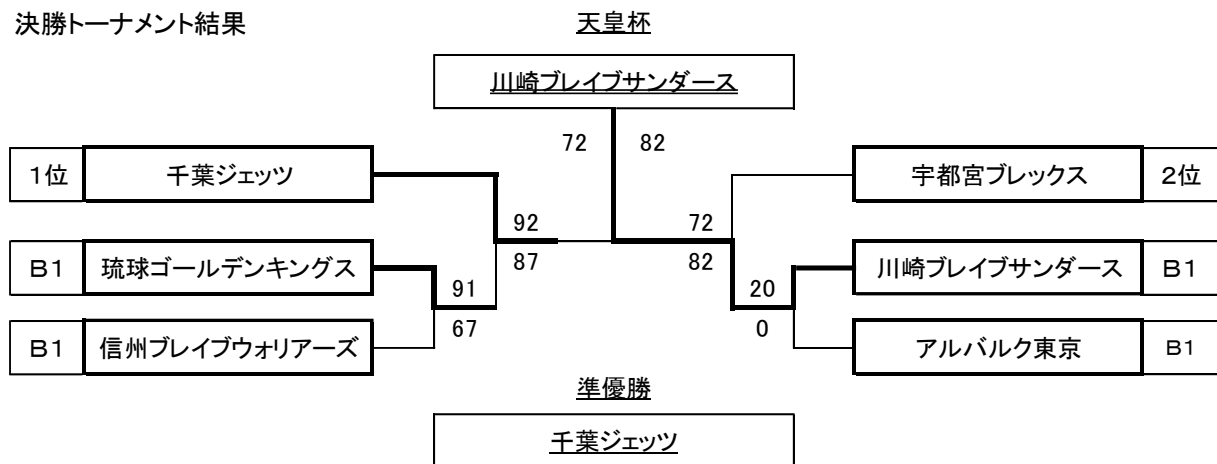
川崎ブレイブサンダースが2連覇、5回目の優勝

[編集部]

2021 年度の第 97 回天皇杯全日本バスケットボール選手権大会は、新型コロナウイルス禍により、規模が縮小され、男女とも各都道府県代表が出場する 1 次ラウンドを廃止し、昨年 9 月の 2 次ラウンドから実施された。しかし、今回の 2 次ラウンド出場チームは前年度の 3 倍となる 60 チームとなった。

決勝トーナメントは、1 月に始まってベスト 4 が決まり、2 月 9 日の準決勝に続いて 3 月 12 日にさいたまスーパーアリーナで決勝戦が開催され、川崎ブレイブサンダースが 7 年ぶりの優勝となった。

決勝トーナメント結果



決勝戦

	Q1	Q2	Q3	Q4	計
千葉ジェッツ	17	16	26	13	72
川崎ブレイブサンダース	26	26	20	10	82

決勝戦は、昨年度 B リーグチャンピオンの千葉ジェッツ（東地区 1 位）に川崎ブレイブサンダース（東地区 3 位）が挑む戦況であり、立ち上がりは千葉が 8-0 とリードした。

しかし川崎は、すぐに逆転するとともに連続 15 得点という反撃を加えて、前半を 52-33 の 19 点と、多量のリードで終わる。

千葉は、第 3 クォーターで反撃を加えて追いかけて 6 得点を詰めるが、第 4 クォーターで両チームともに厳しいディフェンスの頑張りがあって得点が伸びず、後半では 39-30 の得点差としたが追いつくまでには至らず。

結局、川崎が 82-72 の 10 点のリードで賜杯を得た。

ベスト5に選ばれた千葉の#2 富樫はこの決勝戦で19得点（2 P 2 / 5、3 P 3 / 12、フリースロー6 / 8）を記録した。もう一人のベスト5に選ばれた#1 ダンカンが9得点に抑えられている。チームとしては、2 P 15 / 35 の43%、3 P 9 / 34 で27%、フリースロー15 / 23 で65%のシュート成功率が記録されているが、成功率の低さが気にかかる。

川崎は、MVPを得た#0 藤井が26得点（2 P 5 / 7、3 P 4 / 8、フリースロー3 / 4）と好成績を残している。チームとしても、2 P 21 / 40 の53%、3 P 10 / 29 で35%、フリースロー10 / 14 で71%のシュート成功率であり、千葉と比較して優れているが、まだ低い。

リバウンドなどの数は両チームほぼ同等であるが、川崎が千葉より勝っている。千葉のリーグ戦での奮起を期待したい。

MVP

藤井 祐真 （川崎ブレイブサンダース#0 ） ※初受賞

大会ベスト5

藤井 祐真 （川崎ブレイブサンダース#0 ）	※2回目
ニック・ファジーカス （川崎ブレイブサンダース#22）	※4回目
マット・ジャニング （川崎ブレイブサンダース#23）	※初受賞
ジョシュ・ダンカン （千葉ジェッツ#1）	※初受賞
富樫 勇樹 （千葉ジェッツ#2）	※3回目

あとがき

決勝戦に限らず、チームのシュート成功率が低いのが気にかかる。

日本のトップチームは少なくとも2 P 60%、3 P 35%、フリースロー80%以上のシュート成功率を確保したい。

3月16日に、5月のチャンピオンシップに向け、リーグ戦が再開され、激戦が続く。

Bリーグのリーグ戦真最中にばらばらの日程で行われる天皇杯の決勝トーナメント戦は、闘うチームも、応援するブースターも、今一つ盛り上がりに欠ける。

全日本選手権大会は、少なくとも決勝トーナメントを、ある時期にまとめた日程とアーナにしてもらいたいもの。

以上

Bリーグ 2021～22 season 閉幕

Champion は宇都宮

[編集部]

2021 年 10 月に開幕した B 1 リーグ、今シーズンは昨シーズンに比べてコロナ感染防止のための観客対応が幾分か改善されたが、全国どこのクラブも大小相違はあるものの、コロナ禍による多種の制限により球団運営にかなりの困難をともなったと推察される。

レギュラーシーズン・リーグ戦は、他地区交流戦を含めて当初 1 クラブ当たり 60 ゲームを予定したが、コロナ感染の影響を受けて中止となったゲームも多く、東西両地区とも各クラブのゲーム数に差を生じることとなった。

ゲーム数が最も少なかった千葉はゲーム数 45、逆に多かったクラブは S R 渋谷と富山で、各々 59 ゲームとなってかなりの格差となった。プロリーグとしてはゲーム数が少ないと興行収入も減少し、クラブ経営的にはマイナス面への影響が濃い。

ただし、順位決定方法の優先位が試合数と勝率によるものだったため、総ゲーム数が異なっても順位が決められ、結果を得られたことは良かった。

特徴的なことは、東地区は熾烈な上位争いが最後まで続き、西地区は琉球が驚異的な勝ち数でリーグ戦を制覇したことだろう。

東地区の結果

順位	クラブ名	勝数	敗数	勝率	備 考
1	千葉ジェッツ	35	10	.778	C S 進出
2	川崎ブレイドサンダース	42	13	.764	C S 進出
3	アルバルク東京	39	14	.736	C S 進出
4	宇都宮ブレックス	40	16	.714	ワイルドカード C S 進出
5	秋田ノーザンハピネッツ	31	23	.574	ワイルドカード C S 進出
6	サンロッカーズ渋谷	33	26	.559	
7	群馬クレインサンダーズ	25	30	.455	
8	横浜ビー・コルセアーズ	22	35	.386	
9	レバンガ北海道	21	35	.375	
10	茨城ロボッツ	16	38	.296	
11	新潟アルビレックス	7	45	.135	

強豪ひしめく東地区は千葉ジェッツが、35 という勝数だけで言えば 5 位に相当するが、敗数で 10 とリーグトップで、堅実なゲーム展開がリーグ制覇につながった。

一方天皇杯を制した川崎ブレイドサンダースは、42 というリーグトップの勝数にもかかわらず敗数 13 が響いて 2 位に甘んじ、取りこぼしゲームが響いた結果となっている。同様の要因と言えるのが秋田ノーザンハピネッツとサンロッカーズ渋谷で、やはり渋谷が敗数で 3 つ多かったことで C S に進めなかったのは惜しい。

今シーズンから B 1 に昇格した群馬クレインサンダーズは、負け越したものの 25 勝を上げ、戦力的に上位のクラブに食らいつくゲームもあって、高感度の結果となり来シーズンが楽しみ。

西地区の結果

順位	クラブ名	勝数	敗数	勝率	備 考
1	琉球ゴールデンキングス	49	7	.875	C S 進出
2	島根スサノオマジック	40	15	.727	C S 進出
3	名古屋ダイヤモンドドルフィンズ	34	15	.694	C S 進出
4	シーホース三河	30	23	.566	
5	信州ブレイブウォリアーズ	28	26	.519	
6	広島ドラゴンフライズ	29	28	.509	
7	富山グラウジーズ	24	35	.407	
8	大阪エベッサ	21	36	.368	
9	京都ハンナリーズ	14	43	.246	
10	滋賀レイクスターズ	14	43	.246	
11	三遠ネオフェニックス	10	48	.172	

冒頭でも触れたが、西地区は何といても琉球ゴールデンキングスの勝率.875は立派な勝率だ。約8ヶ月間に及ぶリーグ戦では怪我人も出るであろうし、疲労も蓄積するはずだが、敗数1桁という結果は称賛に値する。新設された沖縄アリーナという専用アリーナも立派だが、長期間に及ぶリーグ戦をきっちり戦ったことは、本土復帰50周年という沖縄の節目に、県民に対して輝かしいプレゼントとなった。

一方2位とはなったが島根スサノオマジックの健闘も目を見張るものがあった。他のクラブから移籍した安藤選手、辻選手、金丸選手に加えて、アメリカ・ケンタッキー大学出身の#8 リード・トラビスや、同様の#2 ペリン・ビュフォード選手らの得点獲得能力が際立っていた。日本人選手の#3 安藤選手はフィールドゴール成功率42.6%、3P成功率35.8%、#14 金丸選手の同率は各々45.1%と40.6%は素晴らしい成績。

4位のシーホース三河は、これまでC S進出の常連組だったが、たった一つの勝ち星の差でC Sを逃してしまった。やはり長期のリーグ戦に耐えたクラブがC S進出のカギを握ったと言える。

昇降格について

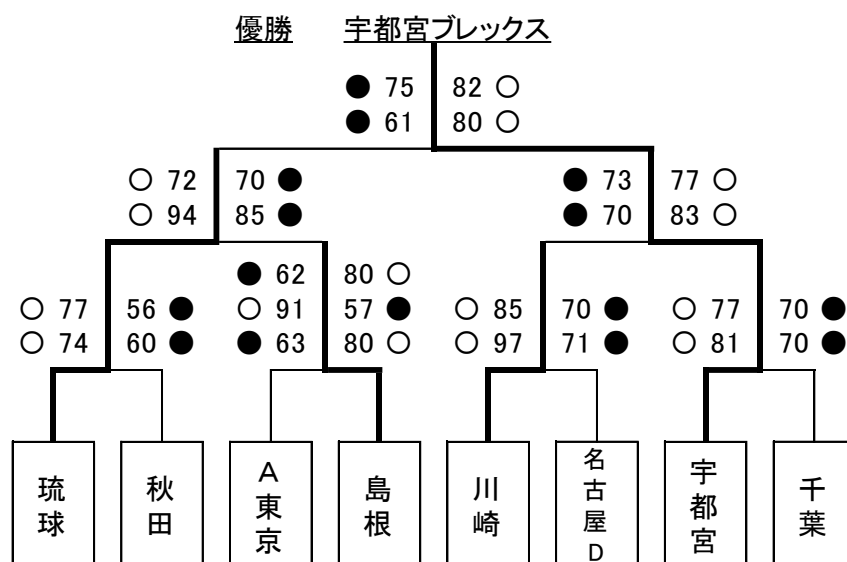
今シーズン1割台の勝率だった新潟アルビレックスと三遠ネオフェニックスは、入れ替え戦や降格がなく、次シーズンはB2から昇格する2クラブを加え、各地区とも12クラブずつの編成となる。

C S トーナメント

東西両地区の1～3位までの6クラブと、両リーグを合わせて勝率が上位の2クラブ（ワイルドカード）を加えた8クラブによるチャンピオンシップ（C S）トーナメント戦が、5月13日から出場上位クラブのホームアリーナにおいて開催された。

トーナメント戦だが一発勝負ではなく、全ての対戦が3戦2勝先取方式で、リーグ戦と同様、ゲームを取りこぼしたクラブに負担がのしかかる形。

結果は別表の通りで、クォーターファイナルにおいて、唯一アルバルク東京と島根スサノオマジックのゲームが第3戦まで持ち込まれ、島根スサノオマジックがセミファイナルへ進んだ。



クォーターファイナルで勝ち上がった3クラブは、いずれもリーグ戦上位クラブだったが、リーグ戦勝率1位で昨年度の王者だった千葉がワイルドカードで出場した宇都宮に敗れた。千葉は宇都宮の執拗なディフェンスに悩まされ、得点が伸びない上に武器でもある走るバスケットができず、かなりの得点をポイントガード#2 富樫に頼ったため総得点が伸びず敗因のひとつとなった。

セミファイナルでは東地区クラブ、西地区クラブ同士の争いとなり先勝したクラブが優位にゲームを進め、2日目に接戦とはなったものの琉球と宇都宮がファイナルへ進んだ。

琉球がファイナルへ進んだのはクラブ史上始めてで、全員バスケットで其々の役割に徹したことが勝因、一方宇都宮ブレックスは5年ぶりのファイナル進出となった。

ファイナル

会場を東京体育館へ移して5月28日から開催されたファイナル戦には、1日目に約7,000名、2日目は1万名近くの観客が訪れた。

1日目はNHKBBS、2日目はNHK総合によるテレビ生中継も行われ、全国のバスケットボールファンをくぎ付けにしたことは間違いないだろう。

おりしも沖縄本土返還50周年の記念行事が、琉球ゴールデンキングスの地元沖縄を中心として開かれていたことと、報道陣からCSを前にして、クラブの柱とする外国籍選手が移籍してしまって、形勢不利とみられていた宇都宮ブレックスとの対戦というカードに、バスケットボール界のみならず、多方面から熱い視線が注がれた。

5月28日 第1戦

	Q1	Q2	Q3	Q4	計
琉球ゴールデンキングス	19	16	21	5	61
宇都宮ブレックス	18	20	16	26	80

お互いに慎重、丁寧なゲーム展開で前半を終えて1点差、接戦は更に続き第3Qの終了時点でも4点差の激戦でゲームが続いた。お互い激しいディフェンスによって簡単にシュートが打てない上、シュート確率や得点も低いままゲームは進んだ。

ところが第4Qに入ると戦況が一変する。宇都宮が突然ゾーンディフェンスに切り替えたり、急にマンツウマンに変えたりしたことによって琉球のオフェンスがペースを乱し、シュートまで至らないオフェンスが続く。

一方宇都宮は、#6 比江島の果敢なスライドインなどで得点を伸ばし、67—58 と抜け出して有利な展開に持ち込む。焦る琉球はその後も宇都宮の巧妙なディフェンスによって得点を抑えられて攻撃がかみ合わなくなり、最後は 80—61 と宇都宮に大差をつけられてしまった。

主なBOXスコア

クラブ名	FG 確率	3P 確率	リバウンド数	ターンオーバー数
琉球ゴールデンキングス	34.2%	16.7%	45	12
宇都宮ブレックス	50.8%	30.8%	35	8

上記の通りでデータの的にも琉球は勝っておらず、リバウンド以外は勝利した宇都宮が圧倒している。リバウンドは大事な要素だが、ディフェンスリバウンドを頑張っても、その後のオフェンスでシュート成功がなければ、ゲーム上ではかき消されてしまうことになるので、高得点にはシュート確率UPが一番効果的とみる。

5月29日 第2戦

	Q1	Q2	Q3	Q4	計
琉球ゴールデンキングス	12	18	24	21	75
宇都宮ブレックス	21	17	17	27	82

第1戦を落とした琉球は、このゲームに勝って第3戦に持ち込みたかったが、厳しい宇都宮のディフェンスの前にシュートが決まらず開始3分に9点のビハインドとなってしまふ。琉球はタイムアウト後、立て直しを図ったが第1Qのビハインドが最後までついて回ってしまう。第1Qのシュート成功率も宇都宮の44%に対して琉球は24%でシュートチャンスも少なく、ゾーンやマンツウなど目まぐるしく変化する宇都宮のディフェンスに手を焼いた。琉球は後半怒涛の攻撃で第3Qの終了時点で54—55と1点差に詰め寄ったものの、その後、宇都宮の比江島を中心としたオフェンスに対抗できず、第4Qの5分過ぎに58—66と引き離されて逆転には至らなかった。

しかし琉球はエバンスの連続得点などで追い上げ、残り2分に再び66—68と迫り、同点に追いつくかと思われたが、肝心なところで宇都宮の比江島に得点されてまたリードされ、最後はファウルゲームで粘ったが、宇都宮は比江島がフリースローを確実に決めて琉球を突き放した。琉球はリーグ戦平均のシュート成功率が54.3%と高率だったが、CSシリーズでは48.1%と下降したことが得点に表れている。

CSで大活躍した宇都宮の#6 比江島は、CSの6ゲームで1ゲーム平均18.7得点を挙げ、大会終了後MVPに輝いた。外国籍選手を上回る得点と、ゲームが拮抗している状況の時に得点で一歩抜け出せるプレーは称賛に価する。

東京オリンピックで1勝も挙げられなかった日本代表にいた比江島だが、その苦い経験を生かしてCSで覚醒し、所属クラブに5年ぶりの優勝をもたらしたと言えよう。



優勝に喜ぶ宇都宮の選手たち 提供Bリーグ

終わりに

今シーズンは前シーズン程でもなかったが、Bリーグ全体がコロナ禍にさいなまれた。

後半になって徐々に観客数が増え、アリーナ全体がよいムードの方向になったが、大声での応援や飲食など一定の制限は続いている。

シーズン中、選手がコロナに感染したり、濃厚接触者になった事例もあって、運営に携わる人を含めて健康管理に大きな負担となった。次のシーズンはコロナ禍が収束して安心してバスケットボールに打ち込めることを願う。

次シーズンはB1リーグが東西とも12クラブとなり、リーグ戦も運営しやすくなるだろうが、上位クラブと下位クラブの強弱差が広がる懸念は拭えない。バスケットボール競技では得点差が少ないほど面白さもある反面、ワンサイドゲームになると観客に飽きが表れて、観客動員数に悪影響が出てしまう。各球団は次シーズンに向け戦力強化を図っていただきたい。

その次に言えることは日本人プレーヤーの技術向上である。インサイドにおいては外国籍プレーヤーの活躍が目立つことはやむを得ないが、日本人は3Pを含めた外角からのシュート確率が低すぎる。東京オリンピックでも見えたところだが、国際的に遠距離からのシュート確率は年々高まっている。今シーズンでも肝心なところで3Pが決められずにゲームを落としたケースが数多く見受けられた。プロである以上、選手は自分の技術を磨く練習を積むことは当然ともいえる。

B1リーグで選手の得点ランキングを見てみると、上位30名に食い込んでいるのは、島根の安藤選手と川崎の藤井選手だけであり、他の選手の奮起を望みたい。

東京オリンピックで体格的に劣る女子日本代表が、3Pシュートとスピードを武器にして、世界に羽ばたいた快挙を忘れないでもらいたい。

以上

第 23 回Wリーグ情報

[編集部]

レギュラーシーズン

WJBLの第23回Wリーグレギュラーシーズンは「東京2020オリンピック」後の2021年10月16日に開幕し2022年3月27日に終了した。

・レギュラーシーズンの順位

1位	ENEOS	勝点 43	(19勝 5負 不成立0)
2位	トヨタ自動車	勝点 42	(20勝 2負 不成立2)
3位	デンソー	勝点 40	(18勝 4負 不成立2)
4位	トヨタ紡織	勝点 40	(16勝 8負 不成立0)
5位	富士通	勝点 37	(17勝 3負 不成立4)
6位	シャンソン化粧品	勝点 37	(13勝 11負 不成立0)
7位	三菱電機	勝点 36	(14勝 8負 不成立2)
8位	日立ハイテク	勝点 34	(10勝 14負 不成立0)
9位	東京羽田	勝点 28	(6勝 16負 不成立2)
10位	山梨Q B	勝点 28	(6勝 16負 不成立2)
11位	アイシン	勝点 26	(6勝 16負 不成立2)
12位	アランマーレ	勝点 26	(2勝 22負 不成立0)
13位	新潟	勝点 25	(1勝 23負 不成立0)

上位8チームがプレーオフに進出

・レギュラーシーズンリーダーズ

・得点

高田 真希 (デンソー #8) 2年連続8回目 【計 354 点 : Avg. 19.67】

・アシスト

町田 瑠唯 (富士通 #10) 5年連続6回目 【計 161 本 : Avg. 8.05】

・リバウンド

渡嘉敷 来夢 (ENEOS #10) 2年連続4回目 【計 264 点 : Avg. 11.00】

・スティール

水野 菜穂 (山梨Q B #74) 初 【計 48 本 : Avg. 2.18】

・ブロックショット

馬瓜 ステファニー (トヨタ自動車#33) 初 【計 40 本 : Avg. 2.00】

・フィールドゴール成功率

渡嘉敷 来夢 (ENEOS #10) 8年連続9回目 【計 167/238 本 : Avg. 69.58%】

・ 3ポイントシュート成功率

三好 南穂（トヨタ自動車#12） 4年ぶり 2回目 【計 40/77 本：Avg. 51.95%】

・ フリースロー成功率

三好 南穂（トヨタ自動車#12） 初 【計 34/37 本：Avg. 91.89%】

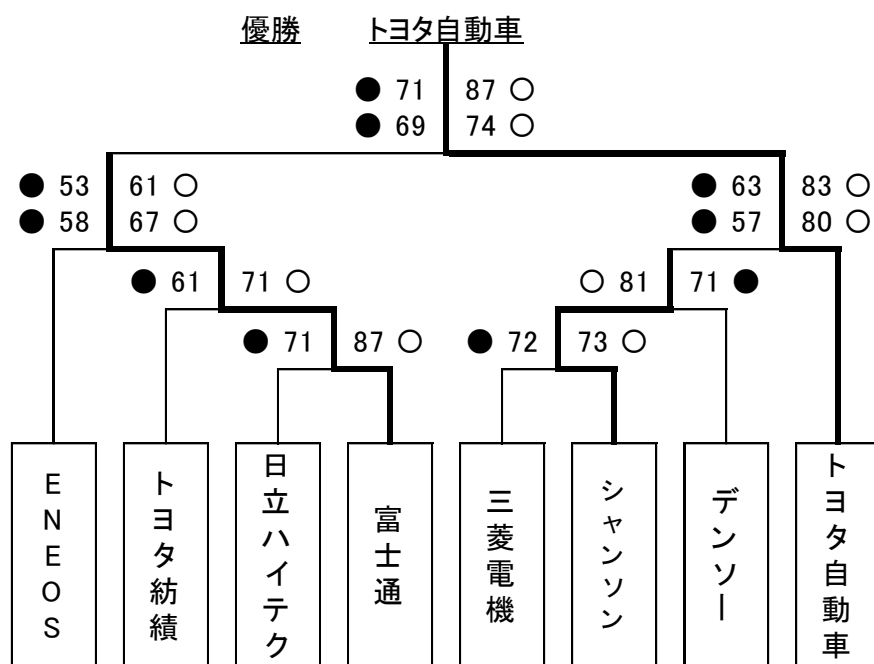
・レギュラーシーズン・アワード

・レギュラーシーズン MVP	渡嘉敷 来夢（ENEOS #10）	2年ぶり 8回目
・ルーキー オブ ザ イヤー	吉田 舞衣（シャンソン#14）	
・コーチ オブ ザ イヤー	ルーカス モンデーロ（トヨタ自動車）	初
・レフリー オブ ザ イヤー	渡邊 諭	初
・ベストディフェンダー	渡邊 亜弥（三菱電機 #45）	2年ぶり 3回目
・ベスト6th マン	平末 明日香（トヨタ紡織#13）	初
・ベスト5 <ガード>	町田 瑠唯（富士通 #10）	2年ぶり 5回目
<シューティングガード>	三好 南穂（トヨタ自動車#12）	初
<スモールフォワード>	赤穂 ひまわり（デンソー #88）	2年連続 2回目
<パワーフォワード>	渡嘉敷 来夢（ENEOS #10）	2年ぶり 10回目
<センター>	高田 真希（デンソー #8）	6年連続 10回目

プレーオフ

2022年4月2日よりプレーオフが開始された。セミクォーターファイナルとクォーターファイナルは一発勝負、セミファイナル以降は2戦先勝方式で開催された。

結果は下記のとおりである。



・セミクォーターファイナル

Game 1	Q1	Q2	Q3	Q4	計
富士通	30	24	15	18	87
日立ハイテク	16	20	21	14	71

Game 1 はレギュラーシーズン 5 位の富士通と 8 位の日立ハイテクとの対戦。

レギュラーシーズン 2 勝の富士通が、スタメン 3 名（#52 宮澤 27、#99 オコエ 21、#11 篠崎 20）で 68 点をあげて 87-71 で勝利し、クォーターファイナルに進んだ。

Game 2	Q1	Q2	Q3	Q4	計
シャンソン	15	14	31	13	73
三菱電機	8	22	17	25	72

Game 2 はレギュラーシーズン 6 位のシャンソンと 7 位の三菱電機との対戦。

レギュラーシーズン 1 勝 1 負の両チーム。前半 29-30 で終えたシャンソンが 3 Q に 31 点をあげたのちは三菱電機の反撃をかわし 1 点差でクォーターファイナルに進んだ。

・クォーターファイナル

Game 1	Q1	Q2	Q3	Q4	計
富士通	20	20	8	23	71
トヨタ紡績	14	17	24	6	61

Game 1 はセミクォーターファイナルを勝ち上がった富士通と 4 位のトヨタ紡績との対戦。レギュラーシーズン 2 勝の富士通が前半 40-31 とリードしたが 3 Q、失速して反撃され 48-55 と逆転される。4 Q はトヨタ紡績の攻撃を 6 点に抑えた富士通が 23 点を上げ 71-61 で勝利してセミファイナルに進んだ。

Game 2	Q1	Q2	Q3	Q4	計
シャンソン	21	23	18	19	81
デンソー	17	11	24	19	71

Game 2 はセミクォーターファイナルを勝ち上がったシャンソンと 3 位のデンソーとの対戦。レギュラーシーズン 2 勝のシャンソンが前半 44-28 でリードし後半を迎える。3 Q、18-24 と反撃されるが 10 点リードで 4 Q を迎える。4 Q を 19-19 でデンソーの反撃かわしたシャンソンが 81-71 で勝利してセミファイナルに進んだ。

・セミファイナル

第 1 戦

Game 1	Q1	Q2	Q3	Q4	計
トヨタ自動車	21	17	21	21	80
シャンソン	14	14	15	14	57

Game 1 は 2 位のトヨタ自動車とデンソー戦に勝利して勢いに乗るシャンソンとの対戦だが、レギュラーシーズン 2 勝のトヨタ自動車が 80-57 で勝利してファイナルに王手をかけた。この試合、トヨタ自動車 #33 馬瓜ステファニーが 19 得点、10 リバウンドのダブルダブルと活躍したほか、4 選手が 2 桁の得点をあげてチーム力を如何なく発揮し、リバウンドも 52-34 とゴール下を支配してシャンソンを抑えた。

Game2	Q1	Q2	Q3	Q4	計
ENEOS	18	9	13	18	58
富士通	20	18	16	13	67

Game 2は1位のENEOSとトヨタ紡織に勝利した富士通の対戦。レギュラーシーズン1勝1負で迎えたファイナルを掛けた両チームの戦い。2Qを9点に抑えた富士通が前半38—27とリードし後半を迎える。4Qに追い上げられるも67—58とENEOSの攻撃をロースコアに抑えた富士通が勝利してファイナルに王手をかけた。ENEOSは主力のキャプテン#11 岡本沙也加と#7 林咲希が怪我のため欠場したのが響いた。

第2戦

Game 1	Q1	Q2	Q3	Q4	計
トヨタ自動車	19	18	23	23	83
シャンソン	15	10	17	21	63

Game 1は第1戦に勝利したトヨタ自動車と後がないシャンソンの戦い。トヨタ自動車は、前日、無得点の#12 三好南穂が14点を上げ存在をアピールした。ベンチスタートの#18 宮下希保も前日の無得点から10点を上げ勢いをつけた。ディフェンスリバンド38—21とシャンソンを圧倒し第1戦と同様にゴール下を圧倒したトヨタ自動車が83—63で勝利してファイナルに進出した。

Game2	Q1	Q2	Q3	Q4	計
富士通	19	13	16	13	61
ENEOS	4	18	16	15	53

Game 2はファイナルに王手をかけた富士通と後が無いENEOSの戦い。1Q、ENEOSの#10 渡嘉敷と#12 高田静のシュートを2本に抑えた富士通が19—4とリード。以降、富士通は終始リードして61—53で勝利しファイナル進出した。2Pシュート17/43 (39.5%)のENEOSに対し22/39 (56.4%)の富士通、リバウンドも8—28—36と6—33—39でいずれも富士通が上回り結果に結びついた。

・ファイナル

プレーオフファイナルはバスケットボールの聖地代々木第二体育館から移って、スタンド席8774名を収容可能な代々木第一体育館で行われた。

第1戦	Q1	Q2	Q3	Q4	計
トヨタ自動車	11	20	23	20	74
富士通	18	23	20	8	69

2連覇を目指すトヨタ自動と14年ぶり2回目の優勝を目指す富士通の戦い。

前半、富士通は、#11 篠崎滯が16点、#52 宮澤夕貴が10点を上げて41—31と10点リードで終わる。3Q、トヨタ自動車#28 シラ ソハナ ファトージャがペイントエリアを支配し11点を上げて61—54と7点差まで詰める。4Q、トヨタ自動車は、序盤シュートを連続に決め更に#2 山本麻衣の3Pシュートで同点にして流れを掴み、守備面で富士通の攻撃を8点に抑えて74—69で勝利し、2連覇に大手を掛ける。

この試合、観客が続々入場し急遽ベンチ裏1階席A、Lブロックを開放して5855人の入場者数歴代最高を記録した。

第2戦	Q1	Q2	Q3	Q4	計
トヨタ自動車	19	24	18	26	87
富士通	14	15	23	19	71

第1戦を逆転で2連覇に大手を掛けたトヨタ自動車とこの試合に勝利し第3戦に持ち込みたい富士通の戦い。

トヨタ自動車、前日の逆転勝利の勢いで前半を43-29と14点リードで終える。#28 シラの12点(2Pシュート6/9、5リバウンド)、#23 山本(9点、3Pシュート3/3)の活躍が光った。3Q、富士通は#8 内野智香英、#11 篠崎、#52 宮澤の活躍で52-61と9点差に縮める。4Q、5分経過時、トヨタ自動車15点、富士通4点で76-56の20点差。トヨタ自動車は、終盤ベンチメンバーを投入する余裕を見せ、富士通の反撃を抑えて87-71で勝利し、2連覇を達成した

第2戦も、観客が続々入場し、ベンチ裏2階席まで埋まる7151人と、入場者数歴代最高を更新した。

・プレーオフ・アワード

- ・プレーオフ MVP 山本 麻衣(トヨタ自動車#23) 初受賞
- ・プレーオフ ベスト5 山本 麻衣(トヨタ自動車#23)
- シラ ソハナ ファトージャ(トヨタ自動車#28) 町田 瑠唯(富士通#10)
- 馬瓜 ステファニー(トヨタ自動車#33) 篠崎 滯(富士通#11)

・最終順位

2022年4月17日のプレーオフの対戦結果で、第23回Wリーグの最終順位が決定した。

- 1位 トヨタ自動車アンテロープス
- 2位 富士通レッドウェーブ
- 3位 ENEOSサンフラワーズ
- 4位 シャンソン化粧品シャンソン
Vマジック
- 5位 デンソーアイリス
- 6位 トヨタ紡織サンシャインラ
ビッツ
- 7位 三菱電機コアラーズ
- 8位 日立ハイテク クーガーズ
- 9位 東京羽田ヴィッキーズ
- 10位 山梨クィーンビーズ
- 11位 アイシン ウィングス
- 12位 プレステージ・インターナショナル アランマーレ
- 13位 新潟アルビレックスBBラビッツ



写真提供 Wリーグ

以上

第 56 回関東女子バスケットボール選手権大会

桜花学園高校OG大活躍！

[編集部]

第 56 回関東女子バスケットボール選手権大会は、2022 年 5 月 8 日（日）の最終日に、国立代々木第二体育館で、8 チームで順位を決める 4 試合が行われた。

決勝戦で東京医療保健大学が、宿敵白鷗大学に 74-65 で勝利し、2 連覇 4 回目の優勝をかざった。

最終順位は以下の通り。

- 1 位 東京医療保健大学
2 連覇 4 回目
- 2 位 白鷗大学
- 3 位 筑波大学
- 4 位 早稲田大学
- 5 位 山梨学院大学
- 6 位 立教大学
- 7 位 日本体育大学
- 8 位 松蔭大学



表彰式に参加の桜花学園高校OG選手 撮影 池田 理

最終日、上位 4 チームの試合（決勝戦、3 位決定戦）で桜花学園高校OGが大活躍した。2 試合合計得点 270 のうち、桜花学園高校OG（7 名）は 108 点を取り、それは 40.0% を記録した。

詳細は 3 位の筑波大は 71 点で #14 朝比奈あずさ 12 点、4 位の早稲田大は 60 点で #21 中山桂 6 点、#23 江村優有 35 点、計 41 点。

優勝の東京医療保健大学は 74 点で #25 伊森可琳 17 点、#77 岡本美優 14 点、計 31 点。準優勝の白鷗大は 65 点で #20 オコンクォ スーザン アマカ 18 点、#16 田中平和 6 点、計 24 点。

試合後、表彰式が行われ 15 の個人賞のうち 7 賞を桜花学園高校OGが受賞した。内訳は以下の通り。

- ・オコンクォ スーザン アマカ（白鷗大） 敢闘賞、リバウンド王（OF28 DF34 T062）
- ・朝比奈あずさ（筑波大）・・・・・・・ 新人賞
- ・伊森可琳（東京医療保健大）・・・・・・・ ベスト 8 賞
- ・江村優有（早稲田大）・・・・・・・ ベスト 8 賞、得点王（132 点）、M I P 賞

大学バスケットボールで切磋琢磨した選手が日本代表としてオリンピック、ワールドカップで活躍することを願っている。

尚、江村優有選手と朝比奈あずさ選手は 2022 年度バスケットボール女子日本代表チームで日本代表候補選手、オーストラリア遠征参加メンバーに選出されている。

以上

人物抄

日本バスケット界の先駆者 『妹尾 堅吉』

[歴史部]



大正時代からバスケットボール競技を始め、明治大学に進学した際には明治大学体育会バスケットボール部を創立、その後、日本バスケットボール協会の設立にも参加した「妹尾堅吉」氏を取り上げます。妹尾氏は、永く日本バスケット界の発展に貢献し、1986年～1987年には3回にわたり、バスケットボール人生について語っています。

この内容を一橋大学教授の坂上康博氏がまとめ、妹尾氏により校閲された文章（注1）があります。

今回、これを参照して要約し本誌に供します。

これにより、生涯にわたって、日本のバスケットボールを愛し発展を願った先駆者（パイオニア）、妹尾堅吉氏のご苦勞を偲ぶことができます。

・1924年（大13）～34（昭9） 「バスケット部の創立」から「体育館の完成」まで

中学から陸上競技をやっていたが、大学入学後の予科の時代も、陸上部に所属していました。そのころ東京YMCAの体育館でバスケットをやっていると聞き、陸上部の2、3人と一緒に試合を見に行き、東京YMCAチームとどこかのチームの試合をみて、非常に面白かった。その印象が頭に残っていて、1924年（大13）に足をケガした時に、何か他の運動ができないかとバスケットを思いだし、陸上部の連中と学生でYMCAの個人メンバーになっている連中を捜し出して10人位集め、私がキャプテン兼マネージャーをやりました。

当時明治大学には体育館がないので、本郷中学とか千代田女学校のグラウンドを借りて練習を始めましたが、自分たちのコートを作ろうということになった。部員に出版社（研究社）の社長の息子がいて、それでくどいて富士見町に持っている父親の何百坪かの敷地を貸してもらった。コート作りの為、ローラーを千代田女学校から借りてゴロゴロ引っ張ってきて「道路を痛めるからいかん」とおまわりさんに怒られた。「かまうもんか、ひっぱれ、ひっぱれ」と、しかしあんまり怒られるもので、夜になってからそっとローラーを借りて運びコート作りをしました。

最初は、学友会の運動部として認められず「倶楽部」からスタート、部に昇格したのは「極東大会以降、籠球部の存在せざる学校はない」などと記した趣意書を1925年（大14）6月5日大学に提出し認可されました。正式な部になると学友会から500円位支給されて代表として大会に出場できます。500円は、ボールを買うだけで使い切り、部員から月に1円の部費を集めボールとかポンプを買い、靴とかユニフォームは個人で買いました。コーチは、東京YMCAのブラウンさんと体育主事の柳田さん、それから東京クラブの遠山さん、彼は7番目くらいの選手でしたけど、私たちから見れば神様みたいな存在でしたが、頼んでしばらくコーチを引き受けてもらいました。

関東大学リーグに東京大学と同時に入って、1926年（大15）から6大学リーグになり

ました。この頃は、明治神宮大会も委託を受けて学生連盟が運営しました。

この時代に体育館をもっていたのは東京YMCAだけでしたが、1934年（昭9）に大学にバスケットの室内コートが神田の校舎の4階に完成しました。大学リーグでも使い始め、コートは規格の広さがありましたが、階上の周りにトラックをつくったために、一か所だけシュートしたボールが引っかかる所がありました。このコートは、戦後も、しばらくはリーグ戦で使用しました。

・1929年（昭4） 「フェニックスクラブ」と1930年（昭5）「日本協会の設立」まで

1929年（昭4）に6大学の卒業生で「フェニックスクラブ」をつくり、メンバーは、各大学のキャプテンばかりでした。李想伯君と一杯飲みながら、チーム名は、何にしようかと相談したら「東京クラブ」にしようといわれたが、それでは「東京YMCA」のチーム名と同じではないかと思い、その頃、作家の久米正雄が「不死鳥」という題名の小説を書いていたので「フェニックス」をチーム名に借用した。不死鳥もだいたい死んじゃったけど。大学の現役チームと定期戦をやりましたが、殆ど負け知らずで、試合が終わればみんなでビールですよ、現役時代は、だいたい禁酒でしたからね。「東京行進曲」が流行っていた頃で不景気であっても良き時代でした。OBといっても、若いから身体は動くし、コレ（酒）もいく、ということでビールを飲みに行ってはワイワイやって楽しかった。

そんな中から、バスケットボール協会をつくろうという話になった。日本協会を設立した時の発起人9人中6人がこのクラブのメンバーでした。

・1930年（昭5） バスケットボールの指導書 李想伯「指導籠球の理論と実際」発行

私は、春陽堂という文芸書の出版元に勤めていて、李君にすすめて書かせたのが、1930年に出版された「指導籠球の理論と実際」という本です。内容の半分は、アメリカの本の翻訳で半分は李君本人が書きました。春陽堂らしい凝った装丁をしたスポーツの本を出したことでそんなものが売れるかと社長から怒られましたが、結果的に、再販もされました。その以前にもバスケットの指導書はたくさん出ていますが、この本が一番まとまっていると思います。現在では、技術がずいぶん変わっていますが、今でも出版すれば売れると思います。

・1928年（昭3） バスケットボール研究会を組織、会報「バスケットボール」を発行

運動社（バスケット用具販売店）に李君と私が中心になって「バスケットボール研究会」をつくり、「バスケットボール」という雑誌を1928年（昭3）年から月刊で発行しました。

・1930年（昭5） 李想伯君のこと

バスケットボール協会をつくったのは、1930年9月で、その年の12月に日本体育協会に加盟しました。協会設立当時、メンバーは資金面も含め、ずいぶんと苦労しました。当時は、大学を出て2～3年ですから、25才から26才位、「体協の会議に出ても20代というのは肩身が狭い」と言ったら李君から「そんなことはないぞ、若いほどいいんだぞ、堅ちゃん、そんな馬鹿なことを言うなよ、20代で仕事をしているんだから、その方が立派じゃないか」と言われた。李君とは一緒に飲んだり、大島へ遊びに行ったりしました。

・ 1931 年（昭 6） 編集発行人 日本協会の機関誌「籠球」発行

1931 年から「籠球」という機関誌を出しましたが、私が出版社にいた関係で発行人をやりました。李君と私は、原稿が足りないとパッと書いて紙面を穴埋めしました。

・ 1936 年（昭 11） 「籠球日本」運動社発行

1936 年から「籠球日本」という冊子を年 4 回発行しました。

・ 1942 年（昭 17） 3 月 「籠球」廃刊 「最初に編集を受け持ったもの」

「籠球」が廃刊されることとなり「体育日本」に合流されることを聞いたまらないもの淋しさを感じた。創刊当時は、協会の組織網も此頃の様には完全ではなかったもので、原稿の集まりも悪く至って単純な雑誌であった。どっちかというとな行本方式の匂いが強く、雑誌としての味が出てきたのはずっと後のことである。（「籠球」第 33・34 号合併号）

・「戦前の男子バスケット」について 「韓国人選手の活躍」

多くの人は、日本は強いと言っていますが、男子が中国に遠征し全勝して帰ってきた時でも半分以上の選手 6 人が今の高麗大学、延世大学の卒業生で韓国人でした。

李君は、韓国人で最後まで李想伯という韓国名を変えずに「創氏改名」政策を進めていた当時の日本の政府から見ると困った男でした。早稲田の大学院を出てから、早稲田の在外特別研究員を何年か勤め日本では一回も就職していない。李君は、体育協会の中でもずいぶんと顔が利いて、知恵袋でした。李君が働きかけてベルリンオリンピックからバスケットボールが競技種目に採用されました。

・「戦時中のバスケットボール」の苦労

1937 年（昭 12）に、文部省が「国民体育館」を神田一ツ橋に作り、その後、厚生省の所管になりました、その頃、私は春陽堂をやめて厚生省に移りました。戦争中の 1942 年（昭 17）に「国民体育館」の館長代理をやっていた時に「籠球体操」というバスケットの準備体操をつくりましたが、「それが戦力に何の関係がありますか」といことを厚生省の体育課長に言われ、私は、頭に来ましてね。戦力に役立つかどうかなんてことをいうならボクシングばかりやればいいんじゃないかと反発しましたが、そのような時代でした。厚生省にも修練局といった弱い身体を強くするといった局もありました。

その頃、バスケット協会から派遣されて、運動用具の配給を管理する統制委員会の委員もやりました。ボールだけは必要なので、配給は、1000 人に 1 個とか 100 人に 1 個とか各協会は登録人数に応じて実行されるので、みんな水増しして、多めに人数を申請する。ところが今度は、それを基準に会費を要求されるので大変でした。

バスケットに対してもいろんな批判があり、女子バスケットについて「婦徳の養成に反する」と批判されたり、学校の先生たちが「バスケットは、シュートするふりをしてぐり抜けたり、パスするとみせてドリブルしたりして、欺瞞に満ちたものだからいかん」と言われた。そんなこと言われるとスポーツは何もできなくなっちゃう、そのような時代でした。

・「楽しむバスケットをやってくれ」 東京大学OB「畑龍雄」くん

戦時中の時代でも、最後までバスケットをやって意思を貫いた人もいました。東大OBの畑龍雄くん。「バスケットは、あくまでバスケットだ、戦争のためではなく自ら楽し

むバスケットをやらなくてはいけない」と言い続けてそれを実践した。畑くんは、当時指導していた東京女高師のバスケット部の「私たちの記録」（1981 年）という本にバスケットの指導方針が書いています。「本当に好きであるという気持ちから、その競技を行うのでなくてはならぬ。競技を行うことによって団体精神が養われるなどということを考えて、それを目的としてやるのであってはならぬ、大切なことは心から楽しんで練習を続けること」（昭和 12 年 6 月 8 日）この考え方は、戦争中も変わらず 1939 年（昭 14）に「楽しむバスケットをやってくれ」と言い残して南京に出兵しました。私は、その時、厚生省に勤務していたので、畑くんの意見に賛成するわけにはいかないんです。バスケットが戦争に何の関係があるのかと、上から言われる時代ですが、「戦争は戦争で、自分たちはバスケットを楽しめばよい」非常に良い話ですね。

・ 1943 年（昭 18）頃 厚生省時代

厚生省は、昭和 18 年に戦争に勝ったら、ハワイで戦争祝賀の明治神宮大会をやるという案を考えてそのための予算づくりをしたこともありました。戦争が激しくなって、厚生省の体育関係の部署もなくなり、岡山に出向になり、戦後は、厚生省の医務局に勤務することになりました。

・ 1986 年・1987 年 戦後の今思うこと

① アジアで勝つこと ② 広い普及 ③ 専用体育館

協会をつくった時からオリンピックが一つの目標でした。1936 年（昭 11）ベルリンオリンピックの時の国際会議で日本が身長 180 cm 制限という案を李君が提案しました。フィリピンも、戦後に同様の意見を提案しましたがついに通らなくて・・

① 日本は、日本のやり方を考えて、そしてアジアで勝たなくてはだめですよ。

② もう一つは普及がなければ、頭でっかちで尻つぼみになってしまう、そのために底辺の広いバスケットの普及が必要です。

③ 体育館は、便利なところに作ってほしい、遠くに作っても意味がない。代々木第二体育館も東京オリンピックの時にバスケット専用ということのできたんですけど、今は専用ではない。専用コートが欲しいですね。

おわり

（注 1）「セピア色のバスケットボール」という題名で、妹尾氏が 1986 年 7 月 26 日、1987 年 7 月 3 日、11 月 21 日の 3 日間にわたってお話いただいたものの一部。それを坂上康博氏（一橋大学教授）が編集し、掲載するにあたり妹尾氏ご自身に校閲いただいたもの。（妹尾氏から当振興会へ遺贈頂いた資料からの転載。この資料の出典は不明。）

（注 2）この記事は、「アスレチックス」、「体育日本」、「私たちの記録」、「バスケットボールの歩み」、「明治大学 70 年史」、「立教大学バスケットボール部創部 60 年記念誌」などの文献を参考にして加筆したもの

（注 3）妹尾堅吉氏 明治大学 1927 年卒、1997 年 4 月 15 日没



以上

黄金色のユニフォーム「ハワイ AJA チーム」の来日

歴史部

「10 年のバスケットの鎖国を経てペルリの黒船的役割を演じたハワイ AJA（日系市民体育協会）のスター達、その黄金色のユニフォームは我々の眼底にいつまでもいつまでもやきついていることとなろう」（雑感・K・D 生・バスケットボール NO.9 より）。

終戦から 5 年後、日本が国際社会から閉ざされていた 1950 年 3 月のハワイ AJA 選手来日は、対戦した日本人選手だけでなくスポーツの楽しさを全国の人たちに教え、大きな社会現象ともなった。それから 50 年を経た 1999 年に当時来日の中の数人の AJA 選手たちは、夫人同伴で日本を訪問し旧知の日本人選手・スタッフと交流し改めてスポーツを通じた国際交流の役割を果たしてくれた。

・プロ野球シールズ軍に次いで 2 度目の親善スポーツ使節

ハワイ日系 2 世チームは、ハワイ・シニアリーグ所属の 7 チームから選抜された優秀選手を揃えており、昨年の全米 2 世選手権に優勝したチームと同等の実力を持っている（当銘（弟）、菅井、相坂の三選手は、前年全米 2 世選手権の優勝チームのレギュラー）。吉岡ハワイ 2 世体育協会長が、親善チームの来日の橋渡し役を果たし、「国際親善・日米バスケットボール試合」としてアメリカ軍総司令部の正式許可を得て、戦後アマチュアスポーツ界初めての国際試合を日本バスケットボール協会と毎日新聞社が共同で開催した。ハワイのチームの来日は 2 度目で、1 度目は、ハワイ大学が昭和 8 年 4 月に来日して 17 試合行い 14 勝 3 敗の結果であった。

・戦前のスポーツ活動中止から 10 年の空白

日本の国際的実力の最盛期は、昭和 11 年ベルリン・オリンピック大会（中国、ポーランドを破り、3 回戦でメキシコに敗れた）の参加に続いて、昭和 14 年のカナダウェスタンチーム（当時世界第 2 位の実力）戦あたりまでだと語られている（牧山圭秀）。ベルリン・オリンピックを機に上昇気流にあった日本のバスケット界も戦争を経て相当の実力が退却をしている（遊津孟）。

その後、東京オリンピックの開催が返上され、1944 年（昭 19）にはすべての学生競技が中止になった。1945 年（昭 20）に日本籠球協会が発足したが、戦後初のロンドン・オリンピックに日本は参加が許されず、第八軍（アメリカ進駐軍）の試合は限られた許可された者しか見ていない。この間、多くの選手は最新のバスケットボールのプレイを直接見ることができなかったのである。日本のバスケット界には、上述のハワイ AJA チームの来日まで 10 年間の空白があり、世界のバスケットに触れることができず、最新のバスケットに対する飢餓感があった。

・ハワイチームとのつながり

戦前、東京 YMCA チームのハワイ遠征、ハワイ大学の来日、早稲田大学、明治大学のアメリカ遠征の帰路にハワイで 2 世チームと試合を行ったなどのつながりがある。

・ A A U (National Amateur Athletic Union) 不承不承の許可

2月27日にホノルルをプレジデントウイルソン号に乗船、ハワイ AJA オールスターチームは横浜に向けて出港。

8日朝、横浜に上陸したハワイ AJA オールスターチームは AAU に対する試合許可の手違いから試合を憂慮されていたが、8日朝 AAU 本部で正式に許可したとの入電があり予定通り 11 日から国際親善試合を行うこととなった。ニューヨークの AAU 本部は 7 日会長アルバート・ウェトル氏が同チームの日本における親善試合を許可したと発表した。

同本部のスポークスマンは、次の如く語っている。「会長並びにフェリス書記長はハワイ AAU の要請を再考した結果、今回の許可を与えたが、日本バスケットボール協会は国際バスケットボール連盟に国際復帰を許されていないので AAU 所属のチームと試合をすることは許されない。また今度のハワイチームの訪日は（国際試合には全米大会の優勝チームが辞退しない限り優勝チーム以外のチームを派遣しない）という米国 AAU の方針にも反しているが、このような差し迫った状況では不承不承ながら許可せざるを得ない。」

・ 招待親善試合を顧みて（毎日新聞事業部・鬼塚登）

日本バスケットボール協会の牧山、西郡両理事からハワイバスケットボール招待の共催申し入れを聞いたのが 2 月 1 日だった。8 日に予算が通り、12 日に大阪、名古屋に行き両地区で打ち合わせを済ませ大急ぎで帰京準備にかかったが何分戦後初めての国際試合という大事業の準備期間としては余りにも短い。それでも協会や関係者の協力でスケジュールが決まり、入場券、宿舎などの準備が終わり、愈々宣伝攻勢に入ろうとした 25 日、アメリカ AAU から「ハワイオールスターチームの日本における試合は認めぬ」との重大電報が来て関係者一同を驚かせた。ハワイ選手一行は、既にハワイを出港 8 日には上陸する予定で一部には開催の絶望を報道するなど一時は絶望視したが、努力の甲斐もあって AAU から試合許可の報に接したのが、あたかもハワイ選手一行上陸の朝であった。



プログラム表紙



3月16日西宮における対全日本戦

今度のハワイチームの招待は、戦後アマチュアスポーツ競技界における初めてのことで先に日本から渡米した古橋選手一行が非常な歓迎を受けたと同様にハワイチームに対する受入れ体制はアマチュアスポーツ団体に対する最高のものであったと思う。

・ 1950 年秋に FIBA 復帰 社会現象となった全国八か所の試合

全日本、全学生、日本鋼管、大阪、京都、新潟、神戸学士など、実に効果的に当時の強豪チームと試合し、その効果波及により効果絶大なものがあつた。終戦後バスケットボールは急速に復活し進駐軍によって片手シュートなども十分理解できたけれども我々日本人の身体的条件に於いて多少疑問があつた。しかしハワイチームによって完全に解決され、やれば十分できるという自信をつけた（全日本軍・関口荘次）。

日本の選手たちは、ハワイ日系選手が日本人と同等の体格でありながら、足の下をくぐらせるドリブル、パス、ワンハンドショットの巧みさ、速攻の速さがあるのに驚き、ハワイ日系選手から技術の巧みさだけでなくバスケットの楽しさを教えられた。

・ 1999 年、50 年目の再来日で、旧知の関係者と交流

1950 年（昭 25）3 月に来日したハワイ AJA チームは、戦後間もなく「鎖国状態」にあった日本バスケット界に大きな旋風と技術革新、方向付けをもたらしたことは当時の指導者、選手の記憶に焼き付いている。この時のハワイ勢のうち選手だったマイク正人・菅井（来日時は 26 才）、和市・小泉（同 27 才）、ヘンリー唐次・山下（同 21 才）の 3 氏が夫人同伴で来日。5 月 27 日目黒雅叙園で「感謝の集い」が催され、日本側関係者と 50 年ぶりに再会、旧交を温めた。

50 年のときを経て感謝の気持ちと青春の思い出を忘れずに、50 人以上の関係者が参加した。



来日メンバーの日本国内旅行風景

参照資料

1. 1999 年「プラザ 12 号」に掲載されたハワイ AJA オールスター歓迎記事を参考
2. 1999 年 6 月 15 日 スポーツイベント「バスケットボール」
3. 1998 年 4 月 17 日「ハワイヘラルド」紙
4. 「神田バスケットボール資料室」振興会保存写真

以上

シニアチーム紹介 緑地クラブ

[普及部]

普及部では本誌紙面で全国のシニアチームを紹介しているが、今回は今年の“東京2020オリンピックで驚異的な活躍を見せ、決勝で米国に敗れたが準優勝の第二位に輝いた”日本女子”にあやかり、前回に続きシニア女子チーム、[緑地クラブ]の生い立ちや歴史を、榊原みどりさんから紹介していただく。

緑地クラブの誕生から現在まで

榊原 みどり



1982年8月21日・22日に愛知県豊田市で開催された第1回全国家庭婦人バスケットボール交歓大会に出場するために、東京都世田谷区のバスケットボール大会女子の部に出場していたチームの中から何となく顔見知りだった既婚者を集めて、高山弘明先生がチームを作られた。チームの名前も決まっていなかったが、その時の代表者だった方が、「砧緑地にちなんで緑地クラブにしました」と言われ、緑地クラブが誕生した。

翌年千葉県で開催された第2回同大会に向けて、練習拠点だった当時の東京厚生年金スポーツセンター（現在は大蔵第2運動場）に女性バスケットボール教室が出来、毎週水曜日の午後、集まって練習するようになった。教室の指導者も、日大桜ヶ丘高校で指導されていた、高山弘明先生で、引き続きチームの監督も引き受けていただいた。

1989年秋田県岩城町での第8回大会までは、緑地クラブの名前で参加、翌年からは年齢を重ねてきたため、40歳以上のシニアの部に東京シニアクラブとして参加し、ママさん大会と共に歩んできた。

練習参加者は、多いときは20名以上30名近くになるときもある大所帯となっていた。多くは、大学時代の仲間だったり、社会人チームで活躍し、引退後もバスケットボールを楽しみたい人が参加したりと、口コミでどんどん増えていった。



2020年10月・練習後の仲間たち

第14回の熊本大会からは、若返った緑地クラブチームと、シニア選抜チームに参加する人と2チームに分かれて参加した。この前年から今泉正一先生が教室の指導者となりチームのコーチとなった。

ママさんの全国大会だけでは収まらず、区の大会、都の大会、関東大会、ゴールデンシニアの大会（ねんりんピックの大会）、マスターズ大会等があり、皆で旅行気分も楽しみつつ参加し、各地の名所観光、さらに夜の皆での大宴会を楽しみながら、他のチームメイトとの交流もあり、長い時を共有してきた。いまでは、女性バスケットボール教室もなくなり、緑地クラブチームとして独自に体育館を借りて練習するようになっている。



2017 年マスターズ兵庫大会にて



ねんりんピック富山 2018 にて

2017 年日本家庭婦人バスケットボール連盟がなくなり、一般社団法人日本社会人バスケットボール連盟となっても、同じように全国大会に参加してきたが、一昨年からのコロナ禍で、区の体育館の使用ができなくなり、練習も大会も自粛々々で開催できなくなった。こんなに長い間集まれなくなったのは初めてのことで、人生の一部分をなくしたような寂しさを感じた。

コロナが少し収まった一昨年頃からマスクをしながら、そして、なるべく声を出さない、密にならないように気を付けながら、練習を再開した。どこにも行けない2年間、皆で集まらない2年間はとても長く感じられたが、また少しずつでも練習し、試合ができ、他チームの仲間にも会う事ができる日が来て、改めてバスケットボールが、生活の彩りであり、喜び、生きがいとなっていたことを痛感した。



2019 年 6 月北海道清田カップ大会に参加して

緑地クラブと共に歩んできた 40 年。赤ん坊のころから連れ歩いた子供たちを、一緒に育てていただいた先輩たちを見習い、若い後輩たちの赤ちゃんの面倒を見ているのも楽しみの一つになっている。そしてその子供たちが大きくなりバスケットボールの選手になり活躍するのを誇らしく思う。

今、そんな子供たちもチームの一員となりプレーしている若いチームの光景を見ながら、“バスケットボールを、この先、身体の許す限り、続けていきたい”。

（元緑地チーム代表）



スポーツと障がいのある人たち

— その4 —

上谷 富彦

振興会は障がい者スポーツ活動に積極的に取り組んできた。

とりわけスペシャルオリンピックス（以下SOと記す）には積極的に協力し、競技会の審判員派遣、定期会合の会場の提供など、多大の協力を行っている。

またプラザ紙面ではSOの活動をこれまで3回にわたり報告をした。

- 1 2013 年には、スポーツ庁が新設され、障がい者スポーツの所管が厚生労働省から移管され、今までの福祉リクリエーションの視点からスポーツの視点へと見直しをされたこと。
- 2 2018 年、バスケットボールに関しては、SOとBリーグがパートナーシップを締結しBリーグの公式戦でSO-DAYを実施したこと。
また健常者とアスリートが一つのチームを作って戦う【ユニファイドバスケット】大会を実施したこと。
- 3 2019 年、新型コロナ感染が拡大し、人々の生活が著しく制限されて日常生活が大きく変わった。SOのアスリートたちも予定されたプログラムが中止されて、改めてその重要性を認識したこと。

などである。

そして、2021 年東京・オリンピック・パラリンピックが、2022 年北京・オリンピック・パラリンピックが、それぞれ開催された。世界中にコロナ感染が拡大する中、種々の議論があったが、無観客で行われた。

パラリンピックは 1964 年の東京大会で始めて開かれ、21 か国 318 人の選手が車椅子に乗って競技する姿に世界は目を奪われた。当時、障がい者がスポーツすることなど思いもよらなかった。

それから 20 年たち今回は 162 か国 4400 人が参加した。

今大会のテーマは（WE are 15）「人口の 15%は何らかの障がいを持っている」である。世界保健機関の調査（障がいに関する世界報告書）2012 年によれば、障がい者の数は人口の 15%と示されている。

因みにわが国では、2021 年度の「障害者白書」によると身体障害者 436 万人・知的障害者 109 万人・精神障害者 420 万人、総計 964 万人で人口比 7.6%である。更に、認知症 600 万人、その他の障害者 1000 万を加えると、人口の約 20%、5 人に 1 人が何らかの障害を持っていることになるという。（雑誌世界 1 月号 P63）

会員だより

パラリンピックの語源は下半身麻痺を意味する（パラプレジア）であるが、オリンピックと同時に開催されているために（パラレル）との解釈が定着しつつある。

障がい者の国際大会では、聴覚障がい者の「デフリンピック」、知的障がい者の「スペシャルオリンピックスSO」が4年に一度開催されている。

中でもSOの特徴はトップアスリートがメダルを争う競技会ではなく、アスリートの競技能力に応じて、同じレベルのアスリート同士が競技できるように（ディビジョニング）が特に重要視されている。

競技会では参加アスリートたちは競技能力に応じたレベルで予選を行なう。

ディビジョニング競技においてアスリートは確実に全力で競うことを義務付けられる（マキシマムエフォート）。予選の結果と決勝の結果が大幅に異なった場合は失格となる。つまりディビジョニング競技で力を抜いては公正なクラス分けが不可能になるからである。

こうして、3～8組のクラスで最終戦を行ない、上位者には金・銀・銅のメダルが授与され、かつ、参加者全員が表彰される。

競技会の目的が日常・継続的に行ってきたことの発表の場であり、順位は努力の成果なのだ。

またチーム競技では通常の競技のほか、個人技能競技が準備されている。アスリートの中には、競技のルールを理解できない者も参加している。

現在SO東京のバスケットボールには約250人のアスリートが参加していて、彼らを次の5段階にわけている。

D1では通常の試合が充分に出来る・

D2ではそのひとつ手前の段階・

D3ではルールはある程度理解できているがまだ技術が不足している・

D4はアスリートだけでは試合が成立せずコーチの手助けが必要・

D5は攻守の区別が理解できず、シュート・ドリブルのみ楽しみにしている。

アスリートのH君はシュートを入れることに全力を投入する。シュートを構えた時、周囲に雑音があれば解消するまでじっとして神経を集中する。

まるでゴルフのパットを打つ時のように、彼にとって、シュートを入れることが最大の楽しみでありバスケットのすべてである。SOはこうしたアスリートのために個人技能競技を準備している。

「障がい者スポーツ」がなくなる。障がい者スポーツを統括する「日本障がい者スポーツ協会」が、パラリンピック開催を前に、呼称を「パラスポーツ」に統一する事を発表し、「日本パラスポーツ協会」としたのだ。協会の高橋常務理事は「障がい者スポーツ」の名称では障がい者特有のものと考えられて一般的に広がらないからと説明している。

会員だより

既に述べたように「障がい」と言っても様々な形があり、ＳＯはどのようなレベルのアスリートでも参加できる体制を準備している。パラスポーツの概念に相応しい団体なのである。

確かに 2022 年東京・パラリンピックの車椅子バスケットでは、鳥海選手の活躍で見事銀メダルを獲得した。彼は生まれつき両足のすねの骨が無かったが、抜群の上半身運動能力で巧みに車椅子を操作して日本チームの勝利に貢献したことが記憶に残っている。本当に多くの人が感動した。

しかし通常の障がい者が日常的にスポーツを楽しむ機会があるだろうか？

そのためには、地域の行政の力が不可欠である。

ＳＯの中で最近の 2 つの例を紹介したい。

目黒区では行政も障がい者スポーツに力を入れてきたが、駒場体育館とＳＯが共同で毎月一回開催する障がい者のバスケットボール教室に、地域の知的障がい者が参加してくれている。定期的にスポーツが出来る体制である。

大田区ではＳＯが主導して今年【大田区スペシャルオリンピックス活動協力会】を立ち上げ、区内の特別支援学級に競技チア体験会の案内を送り実施した。

行政の協力があれば決して不可能なことではないのだ。

新しく「日本パラスポーツ協会長」に就任された森和之氏はパラスポーツを通じて社会が「障がい」を（知る）から（深く理解する）へ進めたいと述べている。（毎日新聞 1 月 30 日朝刊）。

（パラスポーツ）という言葉が広く使われて定着し、障がいのある人たちが普通にスポーツを楽しむことができるように一層の努力を続けていきたい。

終わり



能代に送るバスケ愛

小学生の可能性は無限大。まずは楽しく！

島本 和彦

2021 年度末は新型コロナのはざまを縫って第 53 回全国ミニバスケットボール大会（女子が 3 月 28、29 日。男子が 30 日、31 日）が開催され、縁のある能代ブルーインズも出場したのでお手伝いをさせていただきました。

全国への出場が決まった時点から「練習場所はどこかないですかね？」とか「調整の場所のための相手がほしい」などと相談を持ち掛けられていました。東京の能代人？としては何とかしてあげたい。ということでダメもとで地元の狛江市民総合体育館にお願いしてみたら、ラッキーなことに OK が出たのです。普段から地域総合型スポーツクラブで良いお付き合いをさせてもらっていた賜物と感じます。

そして 29 日の午後 6 時すぎにチームは能代から到着しました、バスで 10 時間。子供たちは元気いっぱいでしたが、付き添いの親御さんや、コーチング・スタッフは少々お疲れの様子でした。地元狛江のミニのチームも見学に来てじっくり練習を見ていました。少しは全国のレベルを感じてくれたのではと……。見るだけでも勉強になりますからね。

さて、本番の結果は 4 試合で 1 勝 3 敗だったものの、能代ブルーインズは異なった環境の中で精いっぱいゲームを楽しんでいたようです。特に小学生のこの頃に、どうにもならないレベルの違う相手と対することは本当に素晴らしいこと。得難い経験を積んだことでしょう。

気付いてみれば 1973 年の第 4 回全国ミニバス交歓大会から取材を始めているのですから 50 年。半世紀にもなっています。これまでやってきたバスケット界に対する悪行？の数々も大いに反省しつつ（笑）見てきました。

今も昔も全国に出場するチームには将来のスター候補が必ずいます。中にはオリジンの異なるハイブリッドな子（その昔はハーフ、最近ではダブルとか……）や、180 センチを軽々と超える周りや頭一つ違うような子もちらほら見かけます。そしてドリブルもうまい。NBA 選手の練習方法を、ユーチューブなどで見て夢中になって練習を積んでいるのだらうと想像できる選手がたくさんいました。すごい時代になったものです。

走、跳、投と三拍子揃った、身体もバランスよく全部使うようにできているバスケというスポーツを、成長の最も著しい小学校という時期に体験できることは本当に幸せなことです。この 3 要素と巧緻性が発達すれば、将来どのような体格になっても対応できるはずです。

小学生の時に小さくてもいつ大きくなるかわかりません。渡邊雄太君は小学 6 年時には 160 センチに届かない子でした。お父さん、お母さんは大きかったのですがそのうちに……と想像はしていましたが、あそこまでというのが正直なところ。ご両親ともバスケに対する姿勢は「まずは楽しく」が一番でした。

先年の東京五輪で色々なスポーツ選手のインタビューを聞いても子供の頃はミニバスをやっていた、というコメントを何度も聞きました。全国大会に出場した選手はもちろんバスケットを目指すと思いますが、自分に合うスポーツをやったら良いと感じます。なるべく長く、一生涯スポーツに関わって欲しいのですから。

（5 月 3 日「北羽新報」に掲載の記事を転載）

高校籠球ふるさと記（埼玉県編）

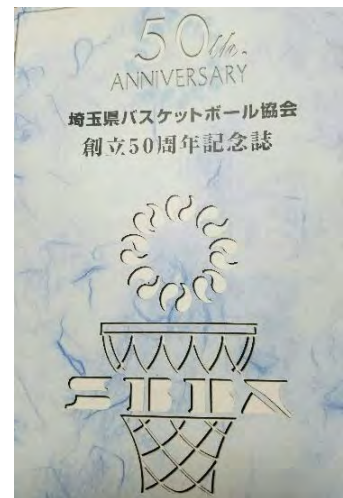
[事務局]

戦後の埼玉県のバスケットの歴史を語る場合、最初に思い浮かぶのは浦和第一女子高校の活躍ぶりである。インターハイでは、第1回(1948年)から第3回までの3連覇、第7回(1954年)から第9回までの3連覇、第11回(1958年)、12回の2連覇、更には、1955年、59年、60年の国体で3連覇と「バスケット王国・埼玉」の名を全国に轟かせた。

この背景には、戦後の協会初代理事長である徳橋善四郎(埼玉師範卒)が、埼玉県秩父出身で当時、東京文理大にいた関口荘次に県高校の強化を依頼し、同氏が同校のコーチに就任したといういきさつがある。

さて、埼玉県バスケットボール協会であるが、1947年にバスケットを愛好する関係者が集まり、初代会長に山崎茂、初代理事長に徳橋善四郎を選出し、スタートした。

このような歴史と伝統を誇る埼玉県のバスケットであるが、本誌では1948年(昭和23年)から1988年(昭和63年)迄を対象に、その間、県内で活躍した高校や選手、コーチ・指導者、審判、更には当時の協会関係者にも焦点を当て、埼玉県の高校バスケット界を通観してみた。内容的には埼玉県バスケットボール協会創立50周年記念誌の他、客観的な資料に依拠し、まとめたつもりであるが、抜けや思い違いがあるかもしれない点、読者の皆様からのご指摘をお待ちしたい。(なお、個人名は敬称略、女性は旧姓、選手の卒業校名の後の数字は西暦卒年、高校名は原則略称)



まずは、**男子**であるが、大きくは4つの期間に分けることが出来る。

第一期(1948年—59年)

43年から55年までは不動岡、浦和、川越、浦和商业が競い合っていたが、56年から59年までは浦和商业が連続してインターハイに出場、56年のインターハイでのベスト8入り、57年の静岡国体での優勝は特筆に値する。

この時期の著名選手として、齋藤 博(川越52—立教大—日本鉱業)がいる。大学2年時の全日本総合選手権で得点源として活躍し優勝を飾っている。54年の第2回アジア大会で日本代表入り、56年のメルボルン、60年のローマオリンピック大会でも日本代表として活躍。

この時期、活躍した選手では、村上(浦和58—埼玉大—埼玉県教員)、木部(熊谷60—東京教育大—埼玉県教員)らがいる。

第二期(1960年—69年)

立教と熊谷の台頭が目立ち始め、この間、インターハイには立教が4回、熊谷が3回、浦和商业、浦和、大宮工業が各1回出場している。立教の63年、69年のベスト8入り、大宮工業の67年の埼玉国体での第3位入賞は特筆に値する。

この時期、活躍した選手では、足立(立教61—立教大)、砂長(川口61—専修大)、篠田(川口商62—専修大)、須田(春日部63—法政大)、阿部(浦和商63—早稲田大)、武井(浦和64—青山学院大)、長島(熊谷65—早稲田大—日本鋼管)、諏訪、秋山(ともに浦和65—青山学院大)、中館(浦和西65—東京学芸大)、小久保(川越工65—拓殖大)、佐藤(浦和西66—東

京学芸大)、門田(与野 66-拓殖大)、三浦(立教 66-立教大)、光野(浦和西 68-東京学芸大)、田中(市立浦和 68-明治学院大)、木下、鈴木(ともに立教 68-立教大)、本田(浦和西 69-法政大)、阿部(浦和西 70-東京学芸大)、折原(大宮 70-東京経済大)、広瀬、吉井(ともに立教 70-立教大)、川崎(春日部 70-立教大-東京海上)らがいる。

第三期(1970年-81年)——1981年より2校出場

川口工業と立教の強さが目立っていた。インターハイには、川口工業が5回、立教が3回出場、越谷、熊谷、蕨、川越商業、小川が各1回出場している。

この時期、活躍した選手では、小川(川越工業 71-新日鉄)、塚田(立教 71-立教大)、久保田(川越工 72-法政大)、大谷(川越工 72-亜細亜大)、児玉(川口工 73-日大-三井生命)、関根(立教 73-立教大-東京海上)、岩見、片岡(ともに立教 73-立教大)、岸野、小杉(ともに立教 74-立教大)、上田(川口工 75-法政大)、飯島、山川(ともに狭山 75-亜細亜大)、岩瀬(川口工 75-中央大-日立本社)、戸田(川口工 75-日大-日立本社)、中村(浦和西 75-筑波大-埼玉県教員)、佐々木(川口工 76-日大)、長岡(川口工 76-国士館大)、高橋、井上(ともに立教 77-立教大-東京海上)、江守(埼玉栄 77-国士館大)、浜(慶応志木 77-慶応大-東京海上)、船津(川口工 77-亜細亜大)、畦川(大宮北 78-仙台大-昌平高校監督)、大野、矢島、村上、遠藤、折原(ともに立教 78-立教大)、松村、青木(ともに川口工 78-亜細亜大)、高築(埼玉栄 78-国士館大)、津久井(立教 79-立教大)、小沢(川口工 79-東洋大-マツダオート東京)、笠間(川口工 79-東洋大)、多田(川口工 79-亜細亜大)、屋代(川口工 80-亜細亜大)、荻野、平山(ともに立教 80-立教大)、池田(川口工 80-東洋大)、金井(川越南 80-東洋大)、伊勢(川口工 80-国士館大)、内田(蕨 80-駒沢大)、大山(川越南 82-早稲田大)、根本(川越南 82-順天堂大)、中島、松本(ともに川越南 82-駒沢大)、梅沢(越谷北 82-順天堂大)、棚橋、長峰、野間(ともに慶応志木 82-慶応大)、佐居(立教 82-立教大)、小沢(埼玉栄 82-国士館大)らがいる。

第四期(1982年-88年)

埼玉栄の圧倒的な強さが目立ち、インターハイには86年を除き、6回連続出場している。後は、川越南、大宮東が各2回、川口工業、大宮北、川口、浦和西が各1回出場している。埼玉栄の84年のウィンターカップでの第4位入賞、85年、88年のインターハイでのベスト8入り、浦和西の88年のインターハイでのベスト8入りは特筆に値する。

この時期の著名選手としては、折茂武彦(埼玉栄 89-日大-トヨタ自動車)がいる。

折茂武彦は、大学4年時に、インカレ優勝。93年にトヨタ自動車に入社、同年、日本代表入り。広島アジア大会や98年の世界選手権他、国際大会で日本代表として活躍、特に正確な3Pショットは日本一と称される。2006年の世界選手権では4年ぶりに最年長で日本代表入りし、チームを支えた。2007年には新たに設立されたレカムイ北海道に移籍、プロ選手として、チームの勝利に貢献した。2011年には、一般社団法人レバンガ北海道を設立、自ら理事長に就任し、選手兼代表としてチームをけん引した。2020年に選手引退。

この時期、活躍した選手では、高桑(浦和 83-筑波大-埼玉県教員)、加藤(熊谷 83-慶応大)、増岡(慶応志木 83-慶応大)、川端(蕨 83-明治大)、高橋(川口工 83-東洋大)、山下(川口工 83-亜細亜大)、秋葉(川口 83-国士館大)、庭野(所沢西 83-国士館大)、白石(不動岡 83-順天堂大)、石川(大宮北 83-埼玉大)、中里(熊谷 83-埼玉大)、岡(川越南 83-埼玉大)、本田(草加 83-東海大)、瓜生(川越南 83-東京経済大)、鬼沢(草加 83-東京経済大)、小金丸(慶応志木 84-慶応大)、佐藤(川口北 84-筑波大)、駒崎、小川、藤田、佐藤(ともに立教 84-立教大)、松野(大宮 84-立教大)、鈴木(埼玉栄 84-国士館大)、

清水（熊谷 84－埼玉大）、長原（不動岡 84－埼玉大）、堀（坂戸 84－東京経済大）、土田（浦和西 85－筑波大－上越教育大監督）、山本（川口 85－駒沢大）、東谷（川越南 85－駒沢大）、豊田（立教 85－立教大）、新藤（川口 85－東洋大）、渡辺（埼玉栄 85－東洋大）、大沼（埼玉栄 85－大東文化大）、田中、秋葉（ともに埼玉栄 85－国士館大）、田中（浦和学院 85－国士館大）、一澤（大宮北 85－埼玉大）、倉田（立教 85－立教大）、坂（埼玉栄 85－東洋大）、栗原、野口、駒形（ともに志木 85－東京経済大）、白木（城西大川越 86－日体大）、梅山（埼玉栄 86－順天堂大）、鈴木（志木 86－東海大）、清水（大宮北 86－駒沢大）、折茂（埼玉栄 86－東洋大）、牛窪（川越南 86－東京経済大）、古沢（松山 86－学習院大）、二宮（所沢 87－日体大－埼玉県教員）、山田（川越南 87－青山学院大）、道祖士（川越南 87－早大）、田村（不動岡 87－埼玉大）、岸本（志木 88－東京経済大）、伊藤（所沢 88－青山学院大）、小俣（所沢中央 88－亜細亜大）、本橋、郷家、萩原（ともに立教 89－立教大）、河野（川越南 89－亜細亜大）らがいる。

次に**女子**であるが、大きくは 5つの期間に分けることが出来る。

第一期（1948 年－60 年）

浦和一女が圧倒的な強さを誇り、インターハイに 13 年連続出場。48、49、50 年、および 54、55、56 年の全国 3 連覇、58、59 年の全国 2 連覇、51 年のベスト 4 入り、53 年、57 年、60 年のベスト 8 入りは特筆に値する。

この時期、活躍した選手では、深川（浦和一女 49）、加藤、鈴木（ともに久喜 51－三井生命）、島田（浦和一女 51）、吉田（浦和一女 52）、大蔵（浦和一女 53－東芝）、町野（浦和一女 53－三井生命）、吉川、森定（ともに熊谷女子 53－三井生命）、川西（熊谷女子 53－東芝）、菊谷（浦和一女 55－三井生命）、大原、駒崎（ともに浦和一女 55－日本勧銀）、石関（瑛）（浦和一女 55－東京教育大）、加藤（浦和一女 55）、小原（浦和一女 56－日本勧銀）、田中（文）（浦和一女 56－三井生命）、持田、宇佐美（ともに浦和一女 56－日本勧銀）菊地、中村（ともに浦和一女 57－日本勧銀）、山岡（浦和一女 57－三井生命）、石関（景）（浦和一女 57－東京教育大）、小内（熊谷女子 58－三井生命）、山下（熊谷女子 58－東芝）、柴田（浦和一女 59－日本勧銀）、三石（浦和一女 59－三井生命）、櫻井、中島、中江、金子（ともに浦和一女 60－日本通運：因みに櫻井は現役引退後、日本家庭婦人バスケットボール連盟理事長）、三宅（熊谷女子 60－三井生命）、加瀬田（熊谷女子 60－東芝）、後藤（大宮 60－日本勧銀）、瀬尾（大宮 60－日本通運）、石関（浦和市立 60－国士館大）、田中、二宮（ともに浦和一女 61－日本通運）、山本（浦和一女 61－東芝）、村上（浦和一女 61－日本勧銀）、須永（大宮 61－東芝）、小池（秩父 61－三井生命）らがいる。

第二期（1961 年－70 年）

61、62 年は熊谷女子、63 年は大宮、その後、64 年から 70 年までは川口女子が 7 年連続インターハイに出場している。川口女子の 67 年のベスト 8 入りは特筆に値する。

この時期、活躍した選手では、竹島（浦和一女 62－日本通運）、笠原、荒井（ともに熊谷女子 62－東芝）、山本、原（ともに熊谷女子 62－日本通運）、荻野、須永（ともに大宮 62－日本勧銀）、横田（川口女子 63－日本勧銀）、金子、堀井（ともに飯能 63－日本通運）、山崎（川口女子 64－日本勧銀）、山崎（川越女子 64－杉野女子大）、正木（川口女子 65－日本勧銀）、関根（深谷女子 66－日女体大）、黒沢（児玉 66－日女体大）、長瀬（草加 66－日女体大）、山崎（川越女子 66－杉野女子大）、笠原（川越女子 66－東京学芸大）、大久保（松山女子 67－日本通運）、塩谷（児玉 68－日体大）、須永（浦和一女 68－日体大）、原口（児玉 68－日女体

大)、鈴木(越谷 68—日女体大)、長谷川(熊谷女子 68—大妻女子大)、堀田(大宮西 69—日女体短大—安田生命)、津端(浦和西 70—埼玉大)、稲山(不動岡 70—埼玉大)、金井、鈴木(ともに浦和一女 70—埼玉大)、和田(春日部女子 71—日女体大)、高橋、山県(ともに浦和一女 71—埼玉大) らがいる。

第三期 (1971 年—77 年)

川口女子と川越商業が強くインターハイには各 2 回ずつ出場している。あと、浦和一女、熊谷女子といった古豪、新勢力の児玉も各 1 回ずつ出場している。川口女子の 73 年、77 年のベスト 8 入りは特筆に値する。

この時期、活躍した選手では、斎藤(川口 72—東女体大)、荒井(春日部女子 72—東女体大)、関口(深谷女子 72—日女体大)、斎藤(川越女子 72—東京学芸大)、富田(浦和一女 72—埼玉大)、井出(川越女子 73—早稲田大)、黒沢(浦和一女 73—埼玉大)、長沢(不動岡 73—埼玉大)、木部(児玉 73—東京海上)、大野(浦和西 74—東京学芸大)、藤城(春日部女子 74—埼玉大)、藤野(浦和西 75—東京学芸大)、中井(岩槻商 75—日本通運)、斎藤(浦和一女 76—東京学芸大)、梁田(久喜 76—埼玉大)、菅井(浦和一女 76—筑波大)、宮寺、森田(ともに川越商 76—東京海上)、高野(志木 77—杉野女子大) 須山(不動岡 77—埼玉大)、高柳(熊谷女子 77—埼玉大)、忍足(川越商 77—東京海上)、村上(熊谷農業 78—日女体大)、橋本(川口 78—日立戸塚)、稲橋(川口女子 78—日本通運)、武田(川越商 78—東京海上)、横張(大宮偕成 78—日本電気) らがいる。

第四期 (1978 年—85 年) ——1981 年より 2 校出場

星野女子が圧倒的な強さを誇り、インターハイには、80 年を除き、7 回連続出場している。これに次ぐのが、浦和西で 2 回出場している。あと、川越商業、川越女子、松山女子、飯能が各 1 回出場している。

この時期、活躍した選手では、金井(浦和西 79—筑波大)、成田、村山(とも浦和西 79—東京学芸大)、大島(蕨 79—日体大)、山田(川口 79—日立戸塚)、砂田、大塚(ともに川越女子 80—東京学芸大)、小林(川口 80—東女体大)、渡辺(浦和一女 80—慶応大)、榎本(川越女子 80—千葉大)、星野(浦和西 80—筑波大)、正木(松山女子 80—東女体大)、阿部(星野女子 80—第一勧銀)、吉永(和光 80—東京海上)、橘(星野女子 80—東京海上)、青木(松山女子 81—杉野女子大)、渡辺、鈴木(ともに川口 81—杉野女子大)、江黒(児玉 81—日体大)、武笠、古賀、岩崎(ともに浦和西 81—埼玉大)、池田(星野女子 81—東京海上)、菊地、内田、大沢(ともに浦和西 82—埼玉大)、山下(川越商 82—共同石油)、近藤(星野女子 82—東京海上)、角田(浦和西 83—埼玉大)、相良(不動岡 83—埼玉大)、後藤(蕨 83—埼玉大)、白石(浦和一女 83—埼玉大)、榎本(久喜 84—埼玉大)、川東(大宮 84—埼玉大)、河合(星野女子 84—青山学院大)、木村(児玉 84—日女体大)、森嶋(川越商業 84—東女体大)、太田(星野女子 85—東女体大)、荻原(春日部女子 85—埼玉大)、斎藤(浦和西 85—埼玉大)、渡辺(川口女子 85—杉野女子大)、細野(大宮東 85—杉野女子大)、井上(星野女子 85—興銀)、藤原(川口女子—日立戸塚)、鈴木(飯能—共同石油)、堀江(小松原女子—日本通運)、椿(浦和西 86—埼玉大)、小池(浦和北 86—埼玉大)、平(坂戸 86—埼玉大)、斎藤(浦和西 86—大妻女子大)、西山(淑徳与野 86—大妻女子大)、渡辺(星野女子 86—東女体大)、河野(飯能 86—東女体大)、杉崎(春日部女子 86—専修大)、若狭(星野女子 86—専修大)、大沼、益子(ともに星野女子 86—興銀) らがいる。

第五期（1986—88 年）

川口女子と大宮東が強く、前者 3 回、後者 2 回、それぞれインターハイに出場している。

この時期、活躍した選手では、松尾（浦和西 87—埼玉大—東京海上）、伊豆倉（浦和西 87—埼玉大）、鈴木（川口女子 87—鷺宮製作所）、渋谷（浦和一女 88—埼玉大）、小櫃（熊谷女子 88—埼玉大）、井上（川口北 88—埼玉大）、高橋（大宮東 88—東女体大）、河野（所沢北 88—青山学院大—東京海上）、富田、板橋（ともに川口女子 89—鷺宮製作所）らがいる。

<コーチ・指導者>

- ・**関口 莊次** 埼玉県秩父出身、東京高等師範 3 年次に戦争から復員。文理大（東京教育大）バスケット部に入部、同大学第 3 期黄金時代の選手で 1947 年の春・秋のリーグ戦で全勝優勝、学生王座決定東西対抗戦でも京大を破り、優勝。初代の学連の委員長就任後、徳橋初代会長と出会い、その依頼で浦和一女のコーチを務め、同校の輝かしい戦績の立役者であり名将。浦和一女のコーチを退いた後、日本通運の女子バスケット部の設立にも係わった。64 年の東京五輪の強化コーチ、日本協会理事も歴任。
- ・**金井 興** 浦和商业の監督としてチームを指導、1957 年の国体で全国制覇をもたらした名将。
- ・**野々山 時生** 1953 年、関口の紹介で浦和商业の金井の下で学生コーチとして研鑽。大卒後は川口女子のコーチとしてチームを指導、1967 年の埼玉国体で第 3 位入賞をもたらした名将。1981 年から 95 年迄、協会理事長も務める。
- ・**棚井 薫** 1956 年大学卒業。1963 年から大宮工業を指導し、67 年の埼玉国体で第 3 位入賞をもたらした名将。
- ・**村上 篤平** 1963 年大学卒業後、川口工業の教員。埼玉教員の選手や監督として活躍後、1970 年から 83 年迄、川口工業を指導、同校をインターハイや全国選抜に出場させた名将。他方、国際審判員としても活躍、ユニバシアードやアジア大会で審判を務めた。

<審判>

埼玉県は審判王国と呼ぶにふさわしい多くの国際審判員を輩出している。

関東や日本協会審判部で既に業績を積んでいた石川仁審判長を中心に 1967 年の埼玉国体に向け、努力し始めた時、当時既に国際審判員として全国の審判の指導に当たっていた秋里瑞穂（兵庫県から埼玉県に移住）に金井興がたまたま出会い、県協会に加わって貰い、その指導を仰いだことも大きかった。

以下、簡単に紹介すると

- ・**石川 仁** 審判王国の育ての親的存在。1967 年の埼玉国体に向け、若手審判員を関東大会や全国大会に派遣し、研鑽を積ませた。
- ・**井上 安法** 初代石川委員長のあとを引き継ぎ、埼玉県を審判王国に育てた立役者のひとり。
- ・**原口 昌倫** 審判委員長として埼玉県を審判王国に育てた立役者のひとり。
- ・**福島 豊** 国際審判員として世界選手権（ニューデリー）、ガガーリンカップ大会（ソ連）他に参加。
- ・**村上 篤平** 国際審判員としてユニバシアード（神戸・福岡）アジア大会（北京・広島）他に参加。
- ・**杉浦 逸生** 国際審判員として オリンピック（ソウル）他に参加。
- ・**木部 正康** 国際審判員としてユニバシアード（福岡）アジア大会（広島）、女子プレオリンピック大会（スペイン）他に参加。

- ・野辺 勝 国際審判員としてアジア女子選手権（バンコク）、ユニバシアード（神戸・ザグレブ・シェフィールド・福岡）、女子世界選手権（オーストラリア）他に参加。
- ・高橋 弘敏 国際審判員として女子ABC（仙台）、ユニバシアード（福岡）、女子ABCジュニア（バンコク）他に参加。
- ・吉田 正司 国際審判員として男子ジュニア選手権（カナダ）他に参加。
- ・秋里 瑞穂 現名誉国際審判員 1967年の埼玉国体に向けての県審判団の取り組みをリードし、日本協会とのパイプ役も務め、埼玉県を審判王国とした功労者。

<中体連バスケットボール専門部の活躍>

1971年から中学校の全国大会が開始されたが、女子で志木中が第3位、73年には男子で日進中が優勝、女子で志木中が準優勝、74年には女子決勝で埼玉県同志の戦いとなり、上尾中が優勝、志木中が準優勝を飾った。77年には男子で新座二中が優勝、79年には女子で新座三中が優勝を飾った。その後、88年には、男子で草加新栄中、女子で和光二中が優勝を飾った。これらの輝かしい戦績の背景には、連盟発足時から理事長を務めた徳橋善四郎の卓越した指導力と力添えに加え、中学の指導者が一致団結し、競技力の向上と審判部の充実に当たったことがある。

<協会関係者>

- | | | |
|--------|-----|-----------|
| ・山崎 茂 | 会長 | 1948年—67年 |
| 徳橋 善四郎 | 理事長 | 1948年—67年 |
| ・青木 正久 | 会長 | 1968年—95年 |
| 石川 仁 | 理事長 | 1968年—72年 |
| 金井 興 | 理事長 | 1973年—75年 |
| 中田 恵雄 | 理事長 | 1976年—79年 |
| 酒井 徹 | 理事長 | 1980年—81年 |
| 野々山 時生 | 理事長 | 1982年—95年 |

<県高等学校体育連盟バスケットボール専門部歴代部長及び委員長>

氏名の後の（ ）内は所属高校				
宇野 丁三	（浦和一女）	部長 兼 委員長	1948年—67年	
野々山 時生	（川口女子）	部長 兼 委員長	1968年—80年	
黒沢 永治	（浦和商業）	部長 兼 委員長	1981年—85年	
小林 康雄	（浦和）	部長	1986年	
渡辺 圭一	（大宮光陵）	部長	1987年—88年	
黒沢 永治	（浦和商業）	委員長	1986年—95年	

以上

【編集後記】

今回、埼玉県の高校バスケットボールの歴史を通観するに際し、資料の提供や情報の整理の面で、埼玉県バスケットボール協会様には、多大なご協力を賜った。誌面を借りて謝意を表したい。

事務局だより

[事務局]

- ◇ 令和4年度の理事会は電磁的方法で決議、総会はプラザ94号に「通常総会資料」(案)を掲載し、書面決議を頂くことになりました。コロナ禍ではありますが、徐々に事務局も実活動を再開し、10月には「シニア交歓大会 in 代々木」、11月には「秋季講演会・懇親会」の開催を予定しています。
- ◇ 振興会普及部の2名が福島県の大型サッカー施設「J ヴィレッジ」(株主は日本サッカー協会)を見学してきました。常磐線楡葉町駅から徒歩10分程度の施設では、昨年10月に、東日本震災後、初の国際大会が開催されました。2019年4月に全面再開しましたが、コロナウイルスの影響を受け利用者也落ち込みました。バスケットボールの男女日本代表チームも合宿を行うなど恵まれた環境で設備が整っており、サッカーコートはもちろんですが、体育館(バスケットコート)・宿泊施設・食堂・会議室(懇親会場)などを訪問しましたが、素晴らしい施設でした。
- ◇ 渡辺理事長が、公益財団法人さわやか福祉財団が開催した「さわやかフォーラム」、「さわやか交流会」に参加しました。全国から「さわやかパートナー」の皆さんが一堂に会しましたが、このように交流することが財団の活動にとって大きな意味があることを実感しました。
- ◇ 振興会会員の皆さんは、「斯界のレジェンド」です。是非ご自分のバスケットの歴史を継承するプログラム、関係資料などがありましたら事務局までご連絡ください。
- ◇ 会費納入のお願い
今年度会費の納入をお願いしておりますが、まだ会費の納入がお済みでない方は納入をお願いいたします。振興会は会員の皆さんの会費によって運営されておりますので、ご理解ご協力をお願い申し上げます。

振込み口座番号

ゆうちょ銀行

00100-3-316035

NPO法人日本バスケットボール振興会

三菱UFJ銀行

神保町支店 普通預金口座 1684743

特定非営利活動法人日本バスケットボール振興会

みずほ銀行

丸の内中央支店 普通預金口座 1004687

特定非営利活動法人日本バスケットボール振興会

プラザ こぼればなし

- ◇ 当振興会機関誌「バスケットボールプラザ」の名称は、振興会発足当初の「振興会ニュース」(B 5 版)に始まり、2000 年に A 4 版に改訂するとともに名称変更を検討し、誰もが集える「広場」を意味する「プラザ」に決定した。「プラザ」名の名付け親は故小笠原氏で来年には「100 号・記念号」を迎える。
- ◇ 本文で紹介のハワイ日系選手チームが、終戦から 5 年後の 1950 年 5 月に来日し、全国 8 か所で試合を行ったが、どこの会場も、日本のバスケットファンで満員となった。特に東京港区芝のスポーツセンターには、8,000 人以上の来場者があったことに驚かされた。
- ◇ 男子日本代表は「FIBA ワールドカップ 2023 アジア地区予選 Window 3」において、グループ B として残りの 2 試合をオーストラリア・メルボルンで、7 月 1 日(金) 18:40 (現地時間) オーストラリアと、7 月 3 日(日) 15:10 (現地時間) チャイニーズ・タイペイと対戦する。この結果、Round 1 のアジア地区予選が終了し、8 月 25 日からの Round 2 (Window 4 ~ 6) が始まる。
- ◇ 男子日本代表の「FIBA アジアカップ 2022」は、7 月 12 日(火)~24 日(日)に、インドネシア・ジャカルタで開催される。この大会はワールドカップ予選とは別の大会で、日本協会は 6 月 13 日に、本大会へ臨む「AKATSUKI FIVE」バスケットボール男子日本代表チームの候補選手(予備登録メンバー) 24 名を決定し、最終エントリーメンバー 12 名は 7 月 5 日(火)に改めて発表される。
- ◇ スポーツ庁は、中学生の運動部活動のありかたについて 4 年前、「練習は平日 2 時間、休日 3 時間までとし、週 2 回以上の休養日を設ける」とするガイドラインを作成した。日本スポーツ協会の昨年の調査では、2 割が週休 2 日を確保できず、4 割が「週休で上限 11 時間」という目安を守っていなかったという。
- ◇ 日本中学生体育連盟(中体連)は学校単位での参加が原則だった全国中学校体育大会(全中)に地域のスポーツクラブなどが参加する際の条件を決めた。部活動の指導を学校外に移す試みで、来年度から 3 年間で週末の部活動を地域や民間団体に委ねるという内容であり、「学校体育」から「社会体育」へ移行させる傾向。

NPO法人
日本バスケットボール振興会
〒101-0051
東京都千代田区神田神保町1-40
豊明ビル 301号室
電話／FAX (03) 3219-9311
メール contact@jbbs.jp

神田バスケットボール資料室

1950年3月に来日したハワイ日系2世チーム(AJAチーム)との交流



1950年3月11日東京スポーツセンターで行われた全学生との試合前、AJAチーム集合写真



1999年5月に来日したAJA選手歓迎会の風景



全学生チームとレイの交換後、住田監督挨拶



全学生のNO,4関口選手シュート



左から
住田AJAチーム監督
牧山全日本監督
畑全学生監督



ハワイAJA選手の
黄金色のシュート
パンツと満員の観客



試合風景



試合風景

「神田バスケットボール資料室」は 神保町のNPO法人
日本バスケットボール振興会の 事務所内に有ります。